

序文

西南戦争遺跡は、明治 10 年（1877）に起こった西南戦争の歴史を伝える近代遺跡です。激戦地となった田原坂（熊本市北区植木町）・横平山（玉名郡玉東町）・吉次峠（同左）を中心に、陣地跡・繃帯所・墓地など多種多様な要素で構成されています。

現地の凄惨さは西南戦争直後から地域で連綿と語り継がれ、官民の垣根を超えて様々な形で顕彰が続けられてきました。

平成 21 年には「植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会」を発足して国指定史跡に向けて両町が連携を図り、平成 25 年（2013）3 月に国の史跡に指定されて以降は植木町と合併した熊本市が当事業を引き継ぎ、玉東町と連携した啓発・活用を続けてまいりました。

このたび、西南戦争遺跡の価値を確実に後世へ継承し平和の尊さを伝えるために、保存活用計画の策定を行いました。

本計画の策定にあたり、学識経験者や地元関係者で構成する「熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会（西南戦争遺跡）」を組織し、令和 7 年度から 2 カ年をかけて内容を協議・検討いたしました。本計画に基づき、西南戦争遺跡が将来にわたって確実に保存され、適切に活用されていくよう取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定に伴いご指導ご助言をいただいた策定委員会の皆様をはじめ、文化庁、熊本県教育委員会、玉東町教育委員会、その他多くの関係者の皆様に対し、深く感謝を申し上げます。

令和 9 年 3 月 31 日

熊本市長 大西 一史

例言

1. 本書は、熊本県熊本市に所在する国指定史跡「西南戦争遺跡」の保存活用計画書である。
2. 本計画の策定にあたっては、熊本市が主体となり令和7年度から令和8年度の2か年にわたり国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（文化庁）をうけて実施した。
3. 本計画は、令和7年度から8年度にかけて組織した「熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会（西南戦争遺跡）」における計画内容の協議・検討によりまとめられたものであり、文化庁文化財部史跡部門や熊本県教育委員会、玉東町教育委員会からの指導助言を踏まえ、熊本市が策定を行った。また、策定にあたっては市役所内部で協議・調整を経て内容を決定した。
4. 本計画の策定に係る事務は熊本市文化市民局文化創造部文化財課が担当し、関連業務の一部を株式会社九州文化財研究所（令和7年度）および株式会社サーベイリサーチセンター南九州事務所（令和8年度）に委託した。
5. 本書における呼称について、政府側の軍隊（陸軍、警視隊、軍夫なども含む）は「政府軍」、西郷隆盛が率いた軍隊は熊本隊などの旧薩摩藩士ではない部隊も含めて「薩摩軍」で統一する。なお、「官軍墓地」などの一般名称の場合はこの限りではない。

第1章 計画策定の経緯と目的

第1節 計画策定の経緯

西南戦争遺跡は明治10年（1877）に起こった西南戦争の激戦地およびその関連地で構成される遺跡群であり、平成25年（2013）3月27日に国の史跡に指定された。史跡は熊本市北部とその西隣接の玉東町にまたがって所在し、熊本市側は道路、石橋、公園などで構成されている。

西南戦争遺跡を構成する田原坂（熊本市）や吉次峠（玉東町）は、西南戦争における初期の戦場であり最大の激戦地である。当該地については以前よりその重要性が認識されており、田原坂公園では西南戦争後80周年にあたる昭和32年（1957）に「西南役戦没者慰霊之碑」（通称「慰霊塔」および「慰霊碑」）を建立して周囲の公園の拡充整備を実施し、昭和58年（1983）には田原坂資料館（平成27年<2015>に「熊本市田原坂西南戦争資料館」にリニューアル）が建設された。その後も公園整備や行事などが実施され、地域振興の大きな柱としてその歴史を継承してきた。

このような中で、平成8年（1996）に文化庁より出された「近代遺跡調査実施要項」において、西南戦争遺跡は本要項が対象とする調査遺跡の選択基準を満たすものであった。平成15年（2003）11月には文化庁記念物課長から「近代遺跡（軍事に関する遺跡）の詳細調査について」の依頼があり、平成20年（2008）6月には文化庁調査官の現地視察がなされた。この時、隣接する玉東町教育委員会で西南戦争遺跡の調査が開始されたことが判明し、また同年の国道建設事業に先行して発掘調査を実施した山頭遺跡では多数の小銃弾や薬莢などの西南戦争関連遺物が出土し、官軍の塹壕跡も確認された。

以上のことから、急速に西南戦争遺跡の調査・保護に対する機運が盛り上がり、平成21年（2009）8月には「植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会」が発足し、国指定史跡に向けて両町が連携を図ることとなり、植木町教育委員会では平成21年（2009）10月から田原坂周辺の調査を開始した。平成22年（2010）度に植木町と熊本市が合併したことに伴い、同年度以降は熊本市教育委員会が調査主体となった。平成25年（2013）3月27日に国の史跡に指定されてからも熊本市は単独で調査を続け、令和7年（2025）3月にこれまでの調査成果をまとめた総括報告書を刊行した（調査の詳細は第3章）。

周知啓発事業については、平成22年（2010）度より玉東町と連携して戦跡の保護・活用に努め、平成24年（2012）度まで市民向けに「戦跡ガイド養成講座」を実施した。平成25年（2013）度からは「西南戦争歴史講座」と改称し、直近の調査報告や戦跡をめぐるウォーキング、学識経験者等を招いた座学などを実施し、現在まで継続して西南戦争とその戦跡の周知に努めている。

西南戦争遺跡がまたがる玉東町は平成28年（2016）に保存活用計画を策定しており、熊本市でも西南戦争遺跡とその関連地も含めた一体的な保存と活用、および玉東町と足並みを合わせた整備を図るため、令和7年（2025）度より国庫補助事業として『史跡西南戦争遺跡保存活用計画（熊本市編）』を策定するための委員会を立ち上げ、内容の検討を行った。

なお、玉東町域の西南戦争遺跡に関しては前述の玉東町が策定した保存活用計画（『史跡西南戦争遺跡保存活用計画（玉東町編）』）で既に言及されているため、本計画は熊本市に所在する史跡および関連地にのみ言及する。

第2節 計画策定の目的

本計画は、西南戦争遺跡とその関連地の本質的価値およびそれらを構成する要素を広く共有し、その適正な保存活用の基本方針や現状変更等の史跡の保存管理における取り扱い方針、整備の基本的な考え方や適切な管理・運営体制等の方向性を定めることを目的とする。それにより、西南戦争遺跡とその関連史跡を将来にわたって保存し、次の世代へつなげていくとともに西南戦争が正しく理解されるように啓発を続けていく。

第3節 委員会の設置と経緯

(1) 委員会の設置

史跡西南戦争遺跡保存活用計画（熊本市編）の策定にあたっては、保存及び活用・整備にかかる基本方針に関することを検討・審議するために、令和7年（2025）7月15日に「熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会（西南戦争遺跡）」（以下、「策定委員会」）を設置した。

①策定委員会委員（五十音順、敬称略）

	氏 名	役 職	専門分野
副委員長	浅川 道夫	日本大学教授	軍事史
委員	落合 弘樹	明治大学教授	日本近代史
委員長	小畑 弘己	熊本大学名誉教授	考古学
委員	高木 恭介	元植木町教育長	地元
委員	平山 愛	植木温泉 女将会	地元
委員	前川 清一	熊本市文化財保護委員会委員長	石造物

任期：令和7年7月15日～令和9年3月31日

②オブザーバー

氏 名	役 職
渋谷 啓一	文化庁文化財部史跡部門調査官
能登原 孝道	熊本県教育庁教育総務局文化課
宮本 千恵子	玉東町総務課兼教育委員会

③庁内部会

関連計画や関連事業との整合性を図り、保存活用における方向性を明確にするため庁内部会を設置し、各意見を計画に反映させた。構成部局は以下の通り。

- ・北区役所 区民部 北区土木センター維持課
- ・北区役所 区民部 北区土木センター植木地域整備室
- ・北区役所 区民部 植木まちづくりセンター
- ・北区役所 区民部 北部まちづくりセンター
- ・農水局 北東部農業振興センター 農業振興課
- ・経済観光局 観光交流部 観光政策課
- ・文化市民局 文化創造部 文化財課（事務局）

（２）委員会開催の経緯

策定委員会は、令和7年（2025）度に3回、令和8年（2026）度に3回、合計6回開催する予定である。

第4節 計画の対象範囲

本市には西南戦争の痕跡を残す場所や遺跡等は数多く存在するが、本計画における対象範囲は、国指定史跡西南戦争遺跡およびその周辺の関連地とする。詳細は下記のとおり。なお、対象範囲に所在する石造物や建造物については別途詳述する。

①史跡西南戦争遺跡の指定地

- ・田原坂本道（一ノ坂、二ノ坂、三ノ坂） ・田原坂公園
- ・豊岡の眼鏡橋

②官軍墓地

- ・熊本県指定史跡 七本官軍墓地
- ・熊本県指定史跡 明德官軍墓地
- ・熊本県指定史跡 寄鶴官軍墓地

③西南戦争当時の景観を形成する範囲

- ・田原坂および田原坂公園隣接地
- ・田原坂から二俣台地（玉東町）方面への景観に関わる範囲
- ・豊岡の眼鏡橋に接続する範囲（道幅）

④未指定の関連地

- ・田原熊野座神社
- ・七本柿木台場薩軍墓地 など

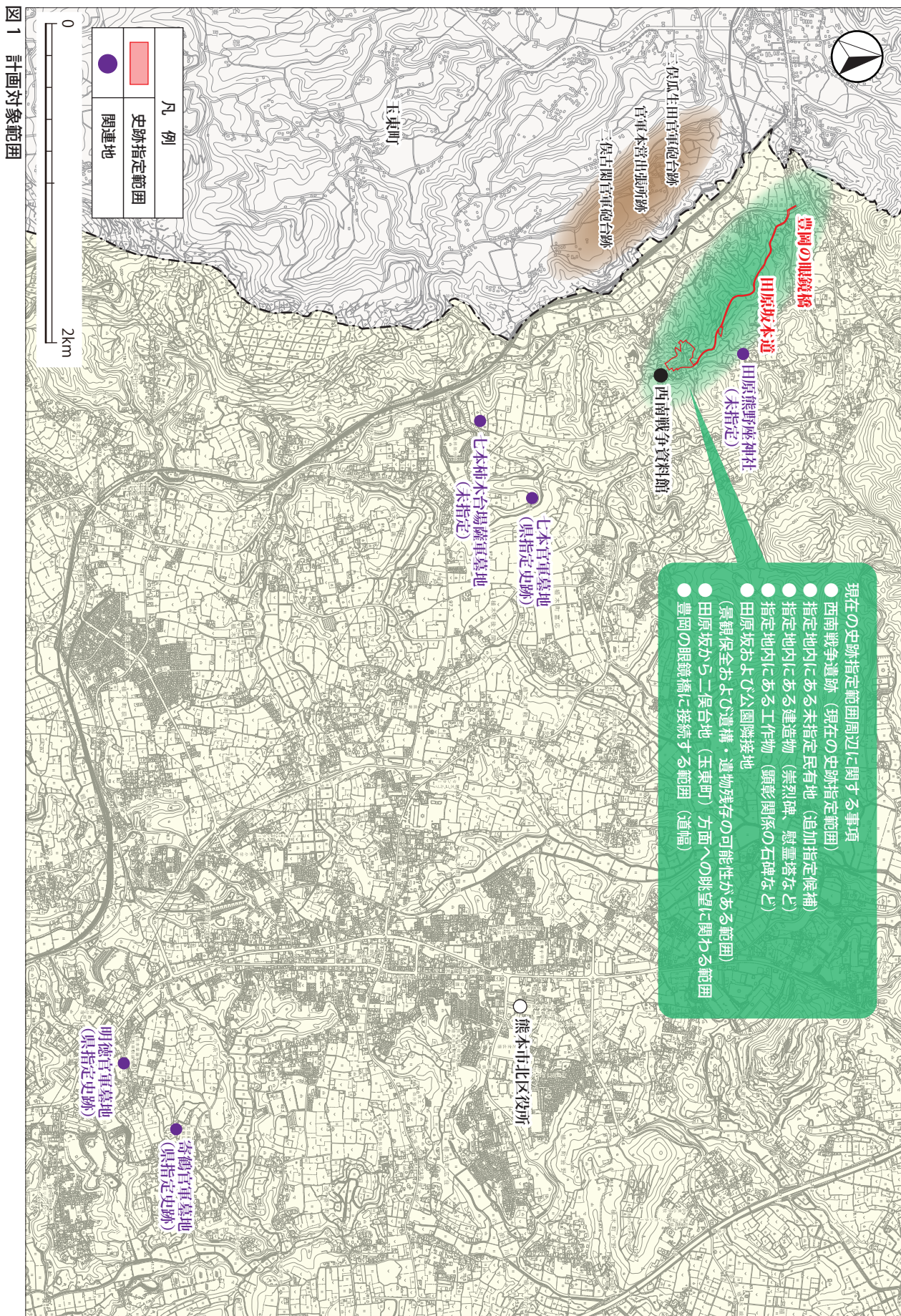


図1 計画対象範囲

第 5 節 関係法令・計画等

(1) 関連法令

本計画の策定にあたって考慮すべき関係法令は以下の通り。(表 1 参照)

①文化財保護法

本計画の対象である西南戦争遺跡は、文化財保護法第 109 条第 1 項に基づき指定された国指定史跡である。そのため指定地は文化財保護法の対象となり、その範囲で現状を変更し又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化財保護法第 125 条第 1 項に基づいた文化庁長官の許可を得る必要がある。文化財保護法第 129 条の 2 により「史跡名勝天然記念物の管理団体又は所有者は、文部科学省令で定めるところにより、史跡名勝天然記念物の保存及び活用に関する計画（以下「史跡名勝天然記念物保存活用計画」という。）を作成し、文化庁長官の認定を申請することができる」と定められている。

また、史跡周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、土木工事等調査以外の目的で当該地を発掘しようとする場合には、文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出あるいは同第 94 条第 1 項に基づく通知が必要である。

②河川法

西南戦争遺跡の範囲内である豊岡の眼鏡橋は、菊池川水系の準用河川（中谷川）に接している。

③都市計画法

西南戦争遺跡の指定地および本計画で対象とする範囲の一部は、市街化調整区域および都市計画法第 34 条第 11 号に基づく区域（集落内開発制度指定区域）、あるいは用途地区に指定されている。対象となる範囲については図 1 に示す。

④都市公園法

田原坂公園、七本墓地公園（七本官軍墓地）、薩軍墓地公園（七本柿木台場薩軍墓地）は都市公園に位置付けられている。これにより、公園内で公園施設以外の工作物その他の物件又は施設を設けて都市公園を占用しようとするときは、公園管理者の許可を受けなければならないとされている。

⑤森林法

二ノ坂、三ノ坂周辺および西南戦争遺跡周辺の景観に関わる範囲が森林法による地域森林計画区域の範囲である。これにより対象の範囲内にある民有林の樹木を伐採する際は、伐採を開始する 90 日前から 30 日前までの間に、熊本市長に「伐採及び伐採後の造林の届出書」の提出が必要である。

⑥道路法

田原坂本道（一ノ坂、二ノ坂、三ノ坂）、中谷川に架かる豊岡の眼鏡橋及び当該橋梁に接続する道路は市道認定されており、道路管理者以外の者が道路に関する工事又は道路の維持を行う場合は道路管理者の承認が必要である。また、当該道路に工作物、物件又は施設を設け、継続して道路を

使用しようとする場合においては、道路管理者の許可を受けなければならない。

⑦国有財産法

七本官軍墓地および明德官軍墓地は国有地である。国有財産法第22条第1項に基づき熊本市が無償貸付を受けている。

⑧熊本県文化財保護条例

七本官軍墓地、明德官軍墓地、寄鶴官軍墓地は、熊本県文化財保護条例第35条第1項に基づき指定された県指定史跡である。そのため、同条例第39条第1項の規定に基づき、その現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする者は、あらかじめ、教育委員会の許可を受けなければならない。

表1 対象地と関係法令一覧

対象地	関係法令
史跡西南戦争遺跡指定地	・文化財保護法 ・河川法 ・都市計画法（法第34条第11号指定区域、市街化調整区域） ・都市公園法 ・森林法 ・道路法
七本官軍墓地	・国有財産法 ・都市計画法（市街化調整区域） ・熊本県文化財保護条例 ・都市公園法
明德官軍墓地	・国有財産法 ・都市計画法（用途地区） ・熊本県文化財保護条例
寄鶴官軍墓地	・都市計画法（市街化調整区域） ・熊本県文化財保護条例
西南戦争遺跡周辺の景観を形成する範囲	・都市計画法（市街化調整区域、法第34条第11号指定区域） ・森林法
未指定の関連地	・都市計画法（市街化調整区域、法第34条11号条例指定区域） ・森林法

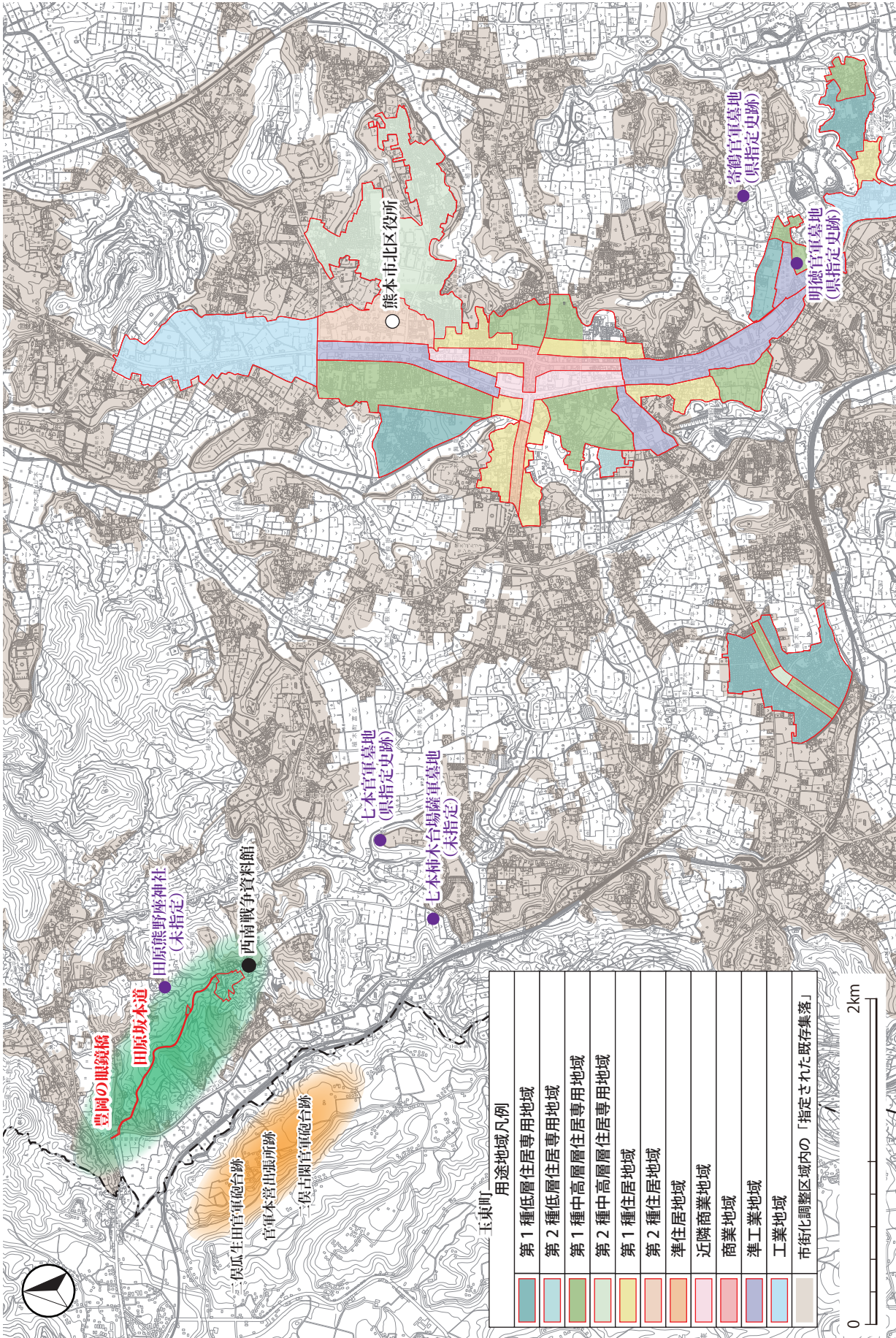


図 2 西南戦争遺跡分布地周辺の用途区域図

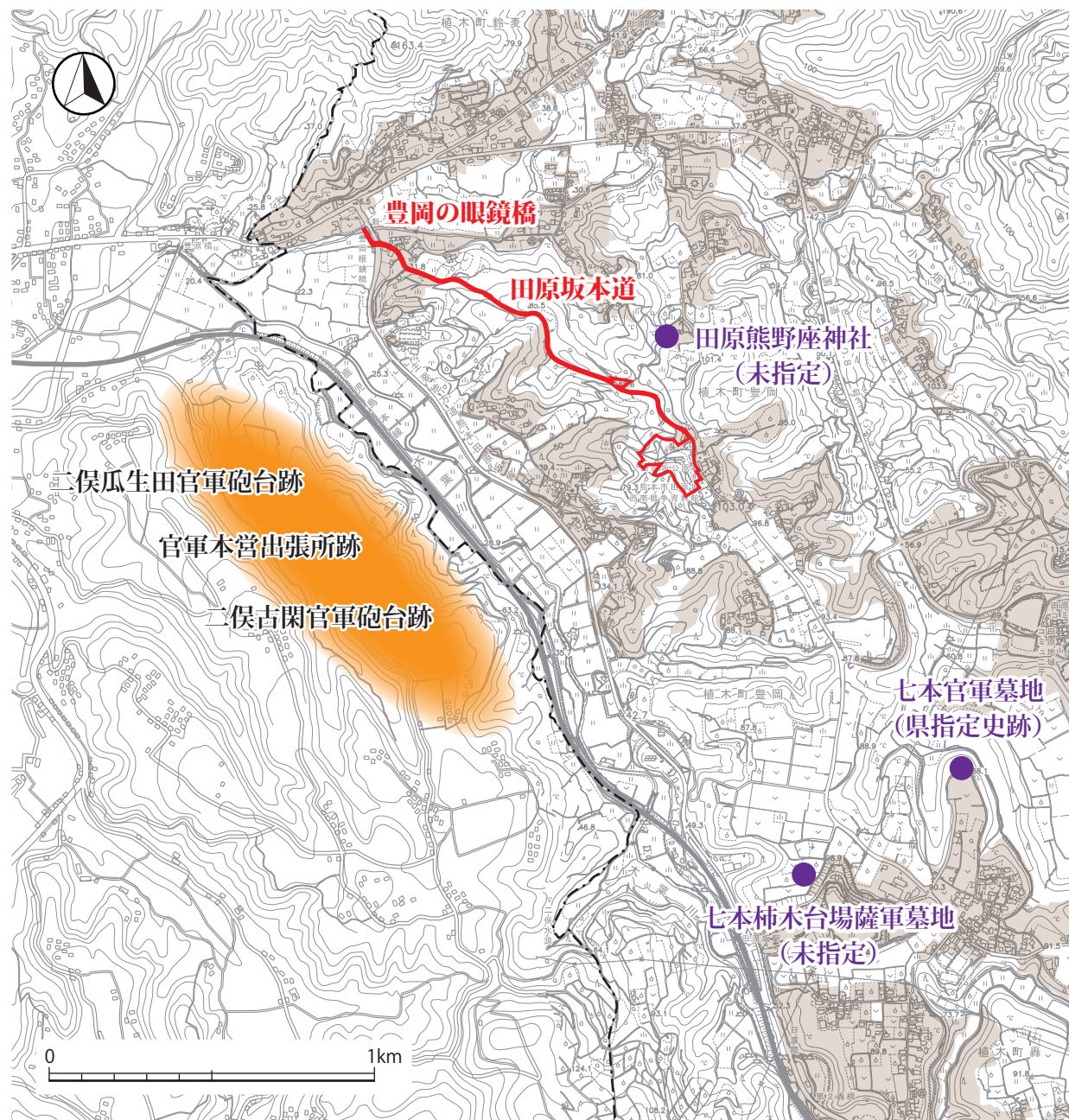


図3 田原坂周辺の市街化調整区域内の指定された既存集落



図4 西南戦争遺跡を含む自然公園（金峰山自然公園）

（出典：金峰山県立自然公園区域および公園計画図（平成2年9月、熊本県）を加工して作成）



図5 都市公園範囲（右七本基地公園・左薩軍基地公園）（出典：熊本市GISを基に作成）

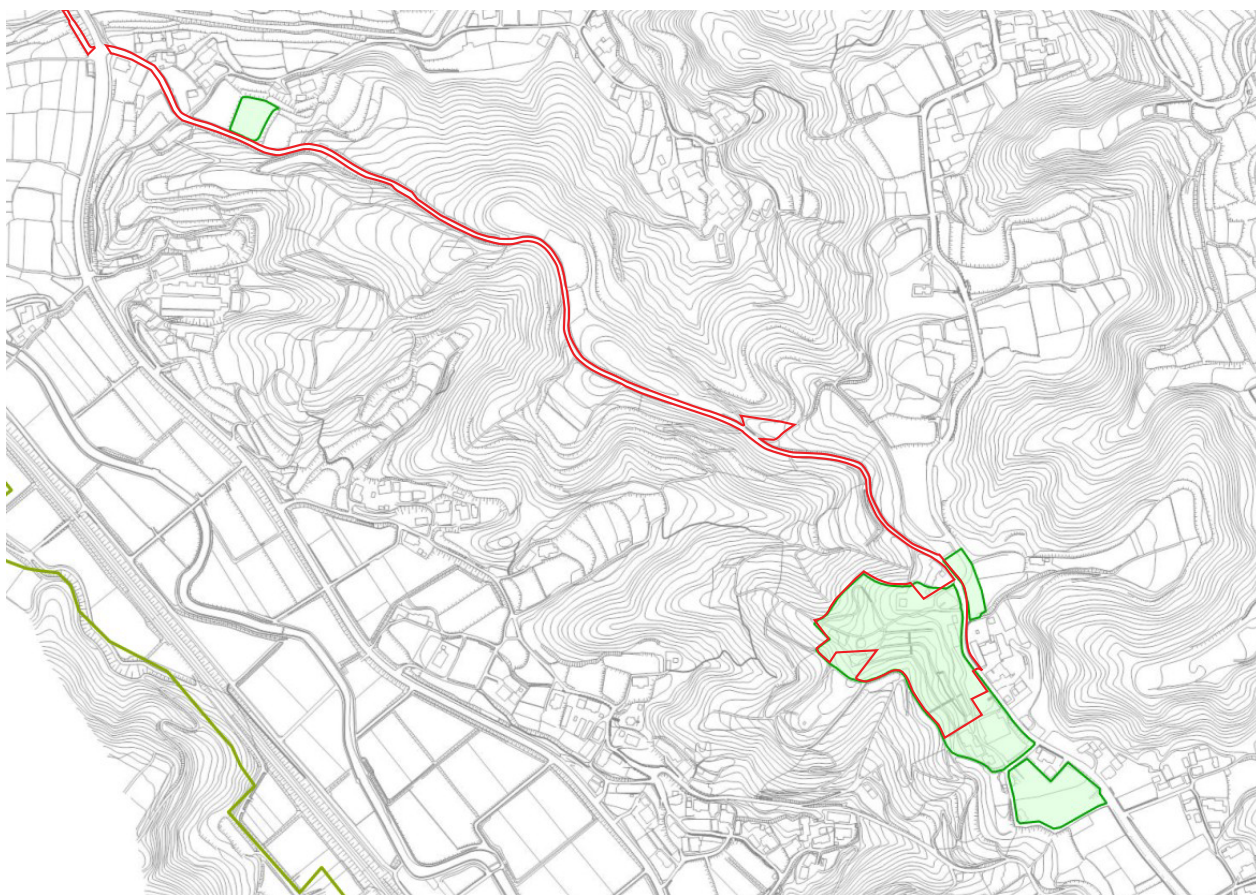


図6 都市公園範囲（右下田原坂公園・左上一の坂公園）（出典：熊本市GISを基に作成）

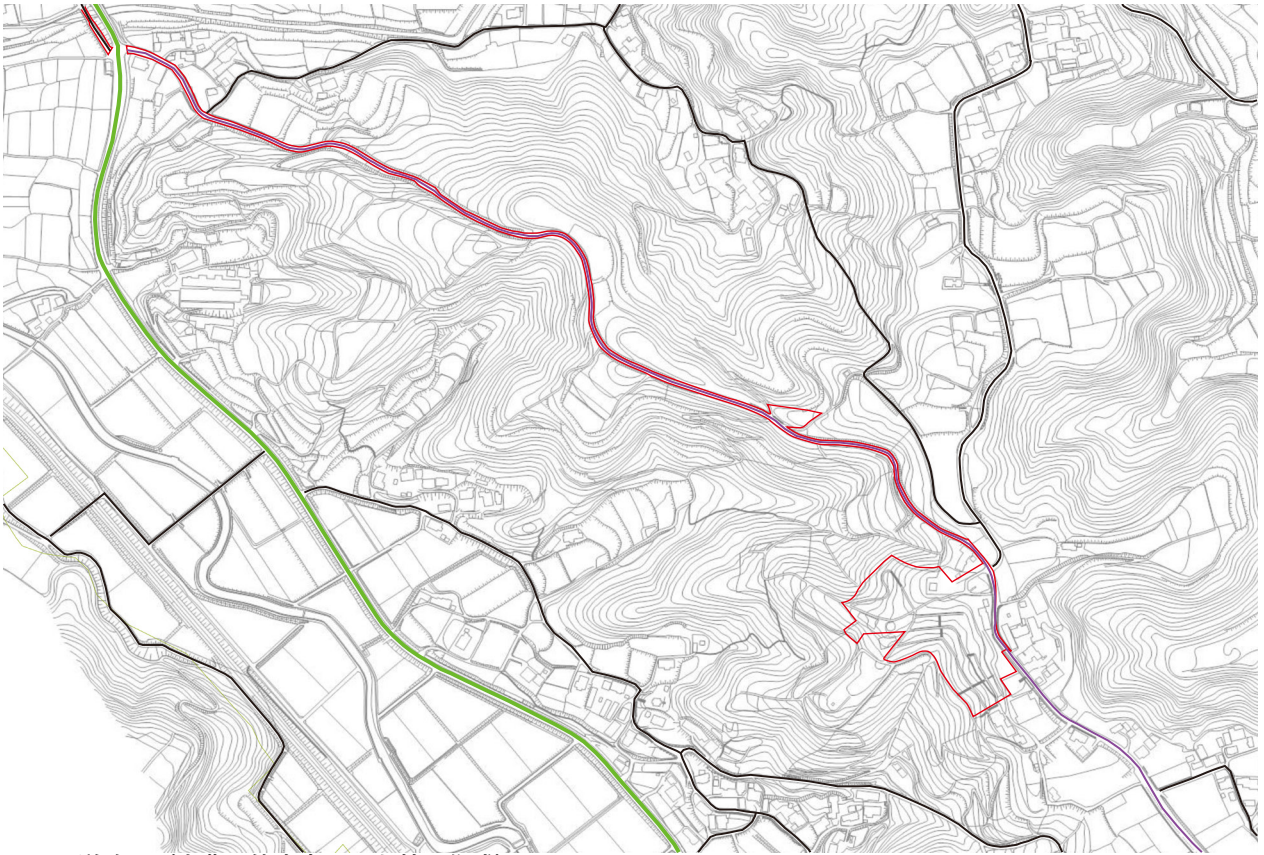


図7 道路図（出典：熊本市 GIS を基に作成）

(2) 関連計画

本計画の策定にあたり、整合・関連を図るべき計画を以下に示す。

①熊本市第8次総合計画【令和6年（2024）3月策定】

本市における最上位の計画。本計画と関わる内容は以下の通り。

ビジョン2 市民に愛され、世界に選ばれる、持続的な発展を実現するまち
2-2 世界を魅了する都市ブランドの向上 豊かな水と緑、歴史と文化、にぎわいに満ちた中心市街地など本市の魅力を最大限に引き出し、世界が憧れ、市民が誇りを感じるまちをつくれます。
ビジョン6 すべての市民がより良い暮らしを営むまち
6-4 文化芸術が持つ多様な価値の活用 本市が誇る歴史的文化遺産が適切に保存されるとともに、文化芸術に触れる機会が多く提供され、多くの市民が文化芸術に親しめるまちづくりを進めます。

②熊本市文化芸術推進基本計画【令和7年（2025）3月策定】

基本施策Ⅲ 文化芸術の継承と活用
<取組1>文化財や伝統文化・食文化等の継承
<取組2>シビックプライドの醸成と地域コミュニティの活性化

③第4次熊本市環境総合計画【令和4年（2022）3月策定】

基本方針3 歴史的・文化的環境をまもり、次世代につなぐ
施策3-1 文化財等を保存し活用する 地権者や継承団体などの理解や協力を得ながら、計画的に有形・無形文化財や民俗文化財・史跡・名勝・天然記念物などの歴史的文化遺産を調査するとともに、適正に保存・整備・活用し後世に継承していきます。

④第2次熊本市都市マスタープラン（地域別構想）【平成30年（2018）9月改訂】

4）自然環境保全及び公園緑地等公共空地整備
①自然環境の保全 【豊かな自然環境の保全・活用】 田原坂、岩野山の周辺は、歴史文化と一体となった貴重な自然環境や生物多様性の保全・活用を図ります。
③レクリエーション拠点 【身近な自然環境を活用したレクリエーション拠点の整備】 田原坂は、田原坂公園を中心に観光・レクリエーション拠点としての活用を推進します。

⑤熊本市教育振興基本計画【令和6年（2024）度～9年（2027）度】

基本方針（6）市民が身近に親しめる文化芸術の振興
②歴史的文化遺産の調査研究、保存整備と活用

⑥熊本市観光マーケティング戦略【令和6年（2024）3月策定】

基本施策1－（3）観光資源の魅力創出

戦略プログラム①歴史文化のストーリー化による回遊性向上

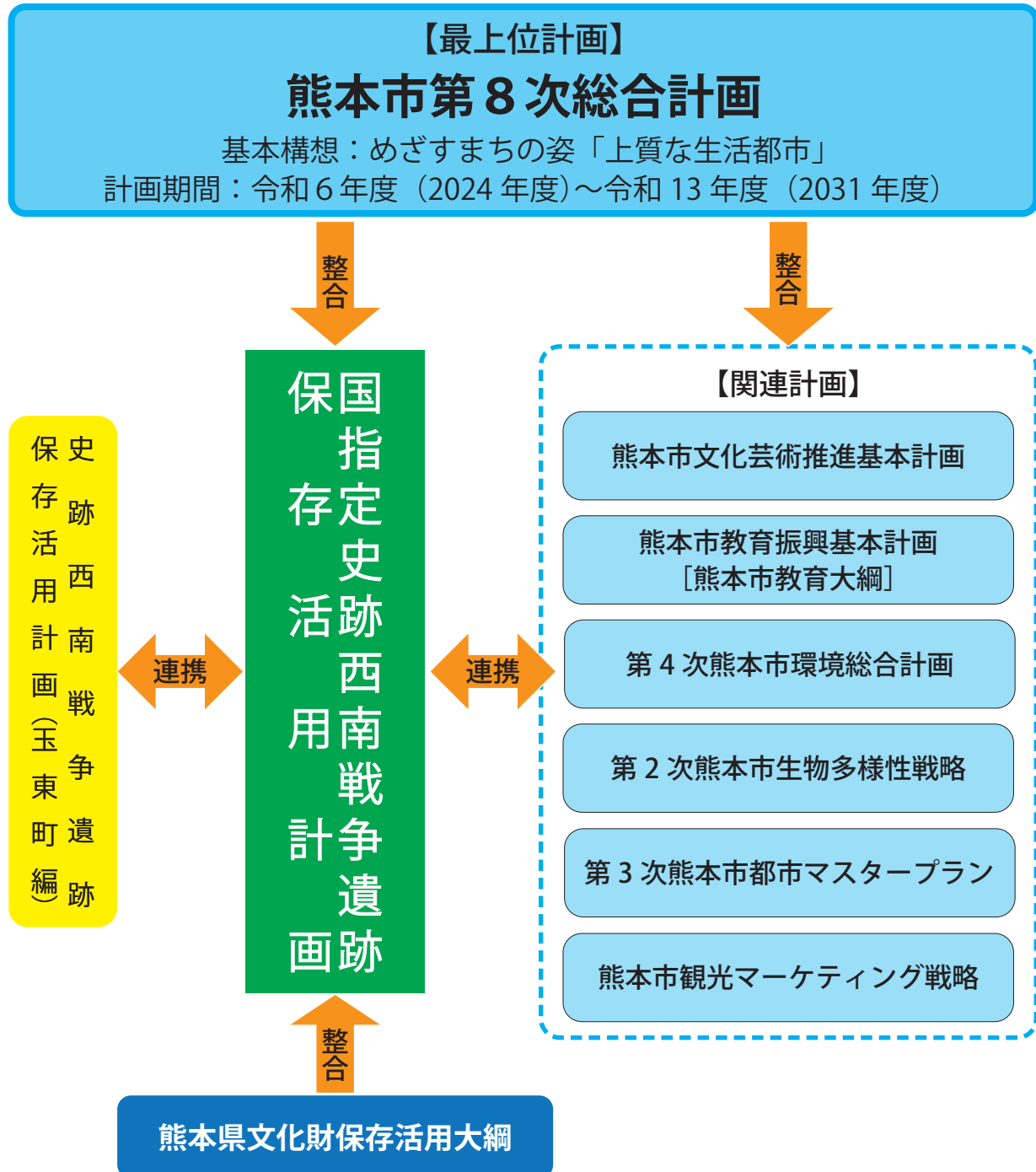


図8 本計画と関連計画の位置付け

第6節 計画期間

本計画の計画期間は、策定の日から10年間とする。なお、記載している施策・事業の進展や地域社会等の変化等への対応を考慮し、必要に応じて計画内容を見直しながら引き続き検討を進める。

熊本市の施策・事業について具体的な内容は「第10章 実施計画と経過観察」に示す。

第2章 熊本市及び史跡周辺の概要

第1節 地理的環境

(1) 熊本市の位置・地勢

熊本県は九州地方の中央部に位置し、その県庁所在地である熊本市は熊本県の西北部に所在する。熊本市の地勢は、北東部の京町台地・託麻台地と西南部に広がる沖積低地により形成される。水系は、阿蘇外輪火山を源とする白川が市中央部を貫流し、白川によって運ばれた砂礫や火山灰は託麻台地端部に扇状地を形成し、広大な沖積平野（熊本平野）をなす。白川、坪井川、井芹川、加勢川、緑川等の諸河川が下流部の熊本平野を潤し、有明海へと注ぐ。

熊本平野の北側は、北西部に位置する金峰山を主峰とする複式火山帯と、元来は同火山帯と一続きだったが後に分断された立田山等の台地からなり、県北の菊池平野と画されている。平野東側は阿蘇外輪火山群の裾野にあたる丘陵地帯であり、平野との境は複雑に入り組んでいる。南側では緑川水系と平野が広がり、台地や丘陵によって寸断されながら八代平野に至る。平野の西側には、水田として利用されている干拓地があり、有明海に面している。阿蘇周辺に降った雨水は地下に浸透して豊富な地下水となり、台地端部で水前寺成趣園や江津湖などの地表に湧出する。

豊富な湧水は市域における遺跡の成立に大きく影響を与え、市域南側の沖積平野では白川や緑川などの現流路沿いに自然堤防が散在する。これが微高地となって枝状に発達し、白川を基準に南へ向かって扇状に広がる。熊本市一帯には、阿蘇火山の火砕流を伴う大噴火の影響より、約9万年前に Aso- 4 火砕流堆積物が堆積した。その後、河川によって浸食され、各地に火砕流台地が形成される。さらに、その生成過程で河岸段丘も形成された。中央区京町付近から北区植木町方面へ続く京町台地も、この Aso- 4 火砕流堆積物からなる台地である。なお、熊本城はこの京町台地の南端に位置し、火砕流台地は先に述べた金峰火山の山麓にも分布している。

(2) 史跡周辺の位置と地勢

西南戦争遺跡が所在している熊本市北区植木町は、熊本市の西北部、東経 130 度 41 分、北緯 32 度 54 分に位置する。熊本市北区植木町の前身である旧植木町は、平成 22 年（2010）に熊本市と合併し、平成 24 年（2012）の政令指定都市移行に伴い、旧植木町の全域が熊本市北区に編入された。

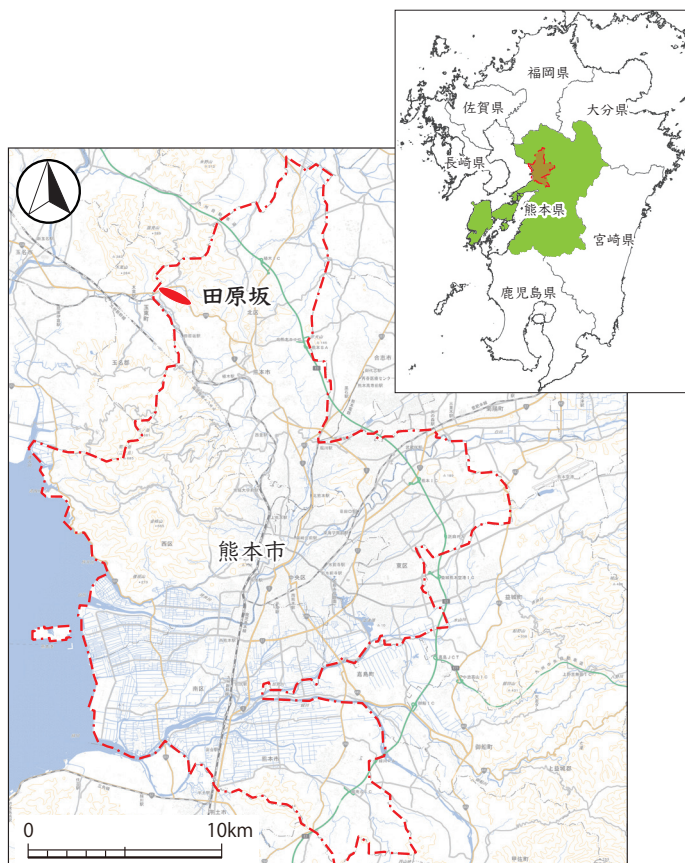


図9 熊本市位置図

植木町の地勢は、熊本県における洪積台地の典型とされる広大な肥後台地のうち、北西端に形成された植木台地とそれを開析する大小の谷部からなる。植木台地は標高約 60 ～ 100 m、南北方向に長い台地であり、東は菊池川支流の合志川と白川支流の坪井川によって画され、西は金峰山系の三ノ岳山体に接している。北には菊鹿盆地が広がり、南には京町台地が連続しており、その向こうに熊本平野が開けている。

本計画で主に取り扱う西南戦争遺跡は、植木台地の西部、豊岡台地と通称される半独立丘陵とその周辺に存在している。豊岡台地は西側を菊池川支流の木葉川に、東側と北側をその支流の中谷川によって浸食された、南北延長約 1.6 km の南北方向に長い台地である。南側は東西両方向からの浸食谷によって緩やかに分断され、付近の字を「境」（大字豊岡の南端）と言い、以南を大字「轟」という。台地傾斜は急こう配で、縁辺には小支谷が複雑に入り組んでいる。これによって分断された舌状の小丘陵が発達しており、戦時においては守備に適した要害地形と言える。本台地には旧三池往還が貫通しており、そのうち北西部の長さは約 1.5 km、標高差 80 m の坂道が田原坂である。

(3) 地質

西南戦争遺跡が所在する豊岡台地は、変成岩類（泥質片岩及び砂質片岩）から成る北側の山地（国見山・金比羅山）と、安山岩溶岩及び火砕岩から成る南方の金峰火山（三ノ岳）との間に位置している。その地質は、谷を隔てた玉東町側の台地と同様に、阿蘇火砕流堆積物（主に角閃石デイサイト溶結凝灰岩・非溶結のガラス火山灰及び軽石）より形成される。

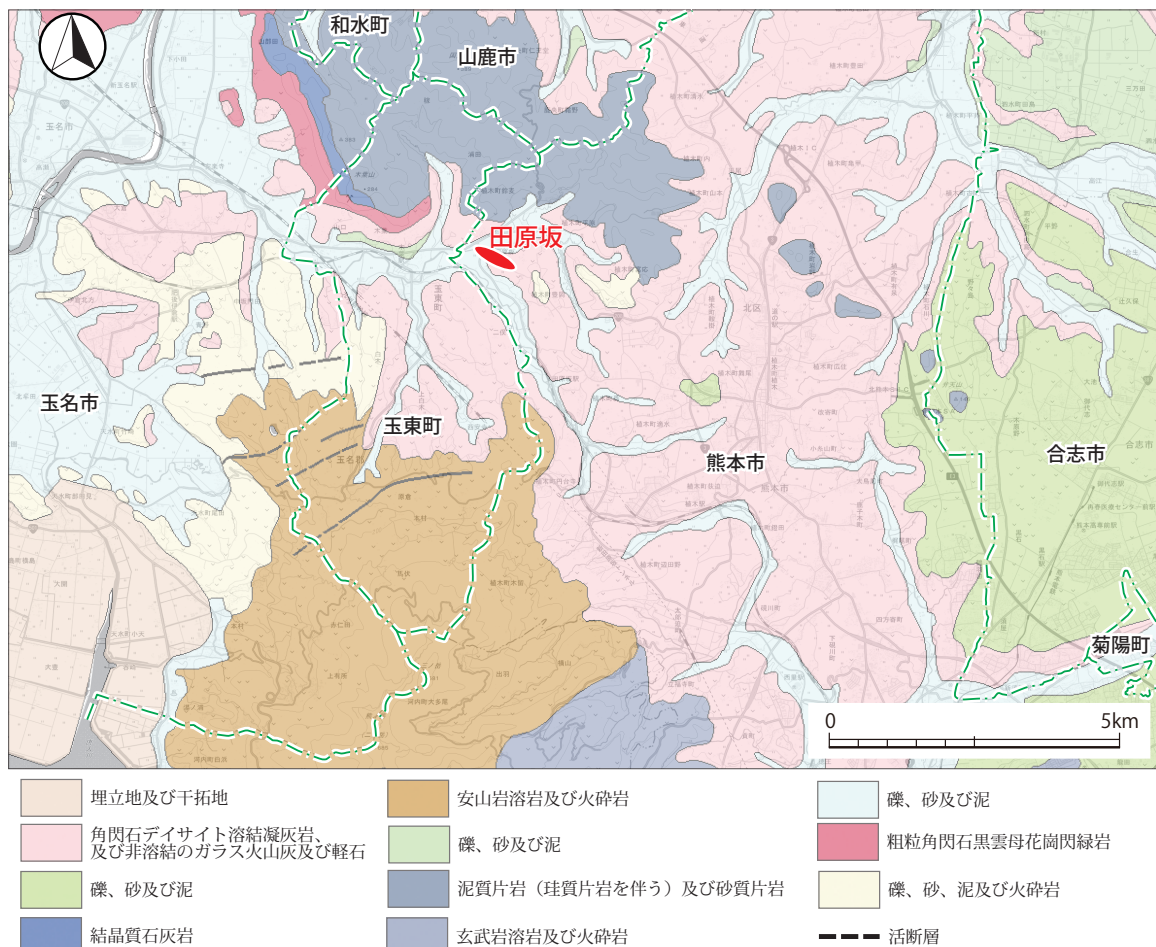


図 10 史跡周辺の地質

第2節 社会的環境

(1) 人口

熊本市は、平成3年（1991）2月に北部町、飽田町、天明町、河内町と合併し、平成20年（2008）10月には富合町、平成22年（2010）3月には城南町、植木町と合併して市域が拡大する。面積390.32平方キロメートル、人口約74万人の市となり、平成24年（2012）4月に全国で20番目、九州で3番目の政令指定都市へと移行した。

市内の人口は令和2年（2020）に初めて減少に転じ、年齢3区分では平成12年（2000）に65歳以上人口が15歳未満人口を上回って以来、高齢層の増加が顕著である。15歳未満および15～64歳の人口は緩やかな減少傾向にあり、全国的な高齢化社会の様相と同様である。

西南戦争遺跡が所在している北区の人口は、東区、中央区に次ぐ第3位である。北区内の校区別人口をみると、田原坂や七本官軍墓地が所在する田原校区は21校区中20番目、明德官軍墓地・寄鶴官軍墓地が所在する川上校区は5番目の位置にある。

北区全体の65歳以上の割合は、田原校区が区内で2番目に多く、川上地区は上から16番目である。高齢化率においても田原校区は上から2番目に位置し、川上校区は17番目にある。しかしながら、高齢単身世帯の割合で見ると田原校区は市全体と比べるとやや高いくらいの数値であり、高齢化率と高齢単身世帯が連動しているわけではないと思われる。

北区の小学校の児童数を平成28年（2016）と令和6年（2024）で比較すると、田原校区は減少しているが川上校区は増加している。また年少人口（15歳未満の人口）の割合も小学校の児童数とほぼ比例している。

一方、令和4年（2022）以降、市全体で外国人人口が増加傾向にある。北区の外国人人口は市内第3位であり、区内の全ての校区で増加している。特に龍田校区が顕著で、半導体産業関連企業の進出による転入者の増加が関係していると思われる。

以上のことから、史跡周辺地域の人口比率、高齢化率、児童数の増減は市の中心部（中央区）からの距離におおむね比例するような様相であるが、一方で半導体産業関連企業の進出による外国人人口の増加があり、今後の史跡周辺地域の性質に大きな変化を与えられられる。

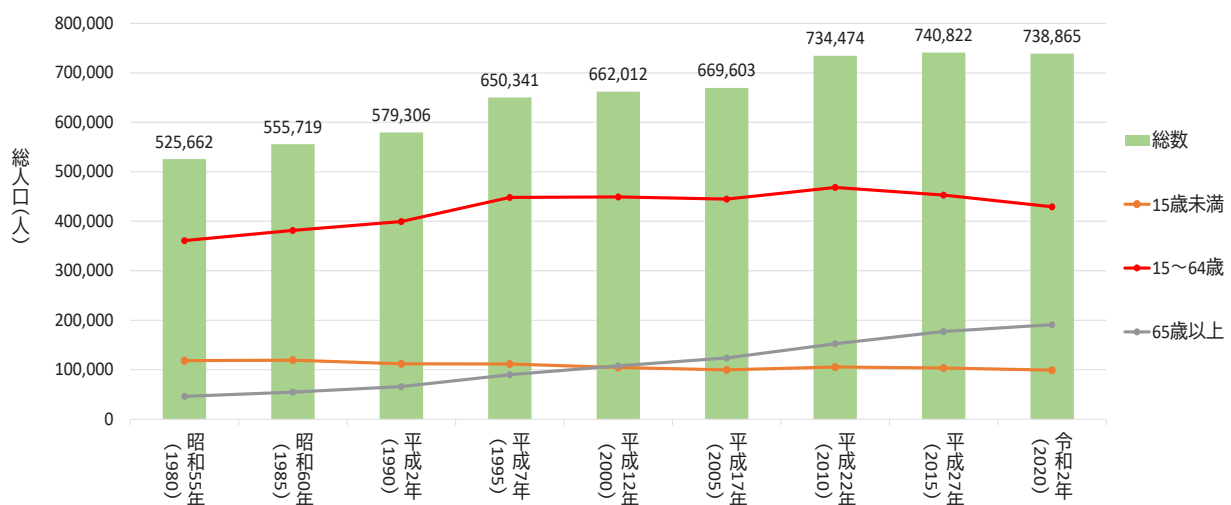


図11 人口と年齢3区分別の推移(国勢調査の数値を基に算出) ※最終的には最新の情報に更新(令和7年国勢調査)

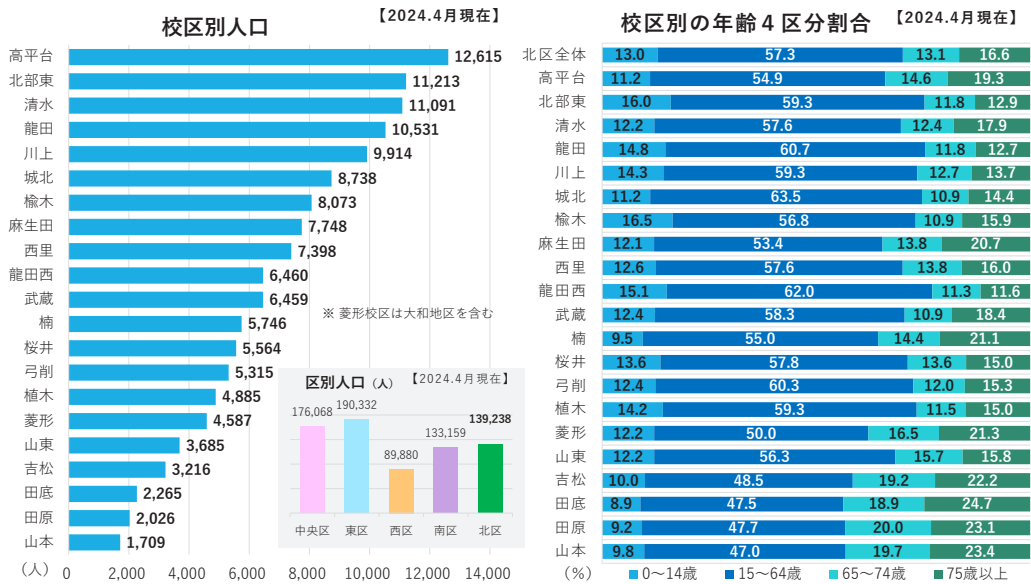


図 12 北区の校区の人口・構成 (出典：熊本市北区地域カルテ)

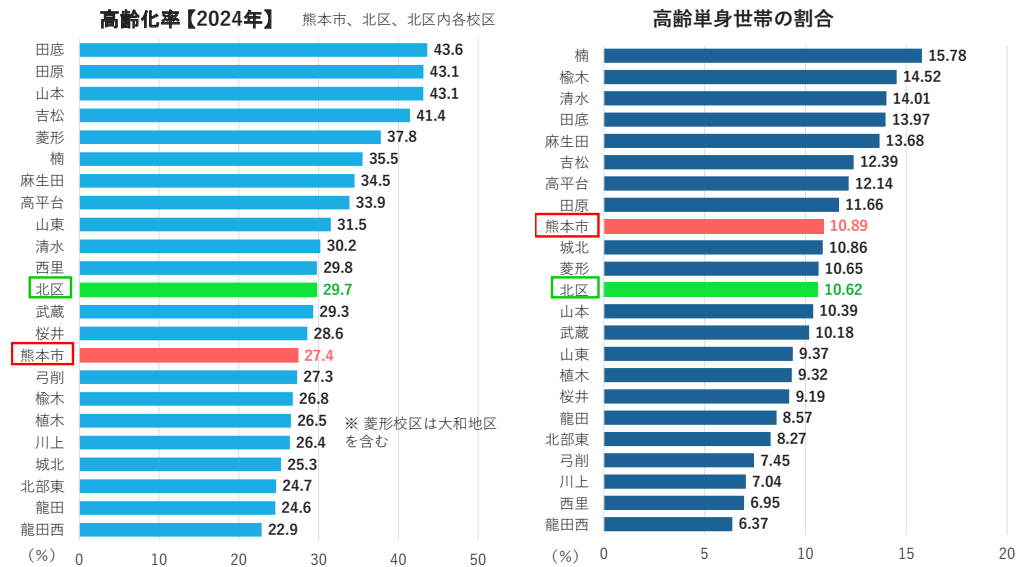


図 13 北区の高齢化率と高齢単身世帯の割合 (出典：熊本市北区地域カルテ)

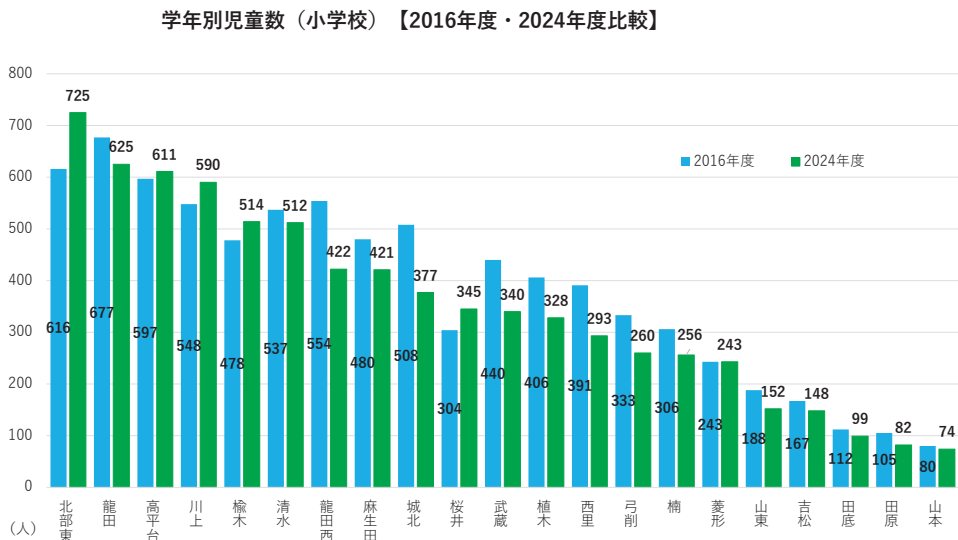


図 14 学年別児童数 (小学校) (出典：熊本市北区地域カルテ)

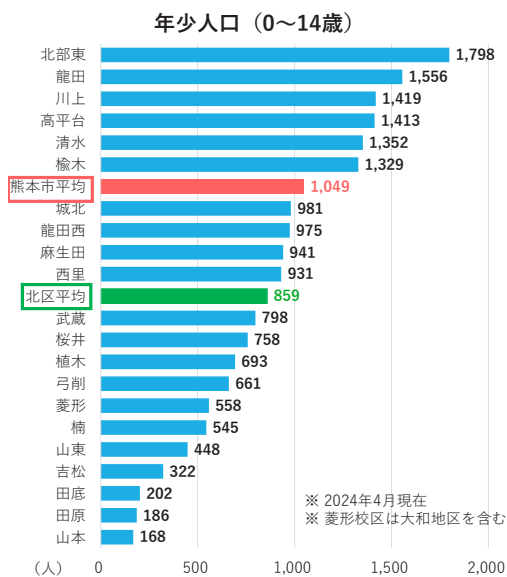


図15 年少人口（出典：熊本市北区地域カルテ）

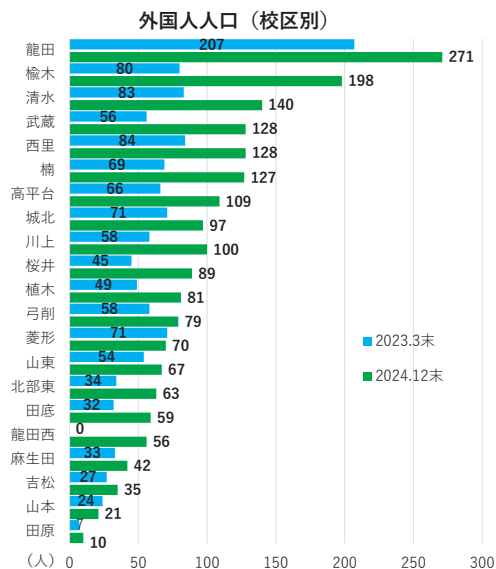
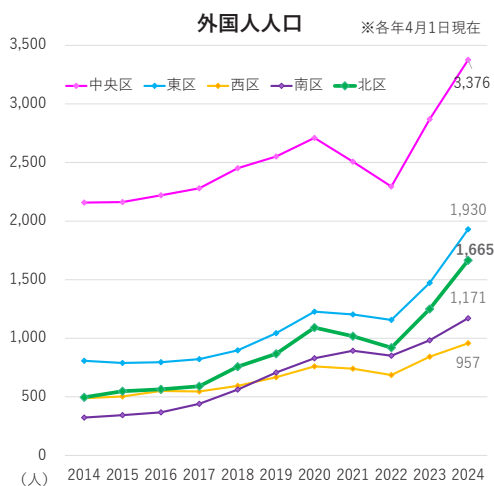


図16 外国人人口（出典：熊本市北区地域カルテ）

（2）交通

鉄道はJR九州鹿児島本線、九州新幹線が熊本市の北西から南にかけて市域を縦断するように通っており、熊本駅、上熊本駅、川尻駅、植木駅などの駅を経由する。史跡（田原坂公園）周辺は田原坂駅もしくは玉東町の本葉駅が最寄り駅であり、各駅から史跡までは徒歩でおよそ1時間を要する。

道路は市域の南東から北東にかけて九州自動車道が通っており、史跡に近いICは福岡・長崎・大分方面からでは植木IC、宮崎・鹿児島方面からでは北熊本ICとなる。史跡までの所要時間は、植木ICからは車で約20分、北熊本ICからは約30分を要する。

市の中心地から史跡へのアクセスは、車であれば約40分、バスなどの公共交通機関を利用すると約1時間を要する。

以上の通り、熊本市域の西南戦争遺跡は市内外からのアクセスにおいて利便性が良いとはいえない位置にある。

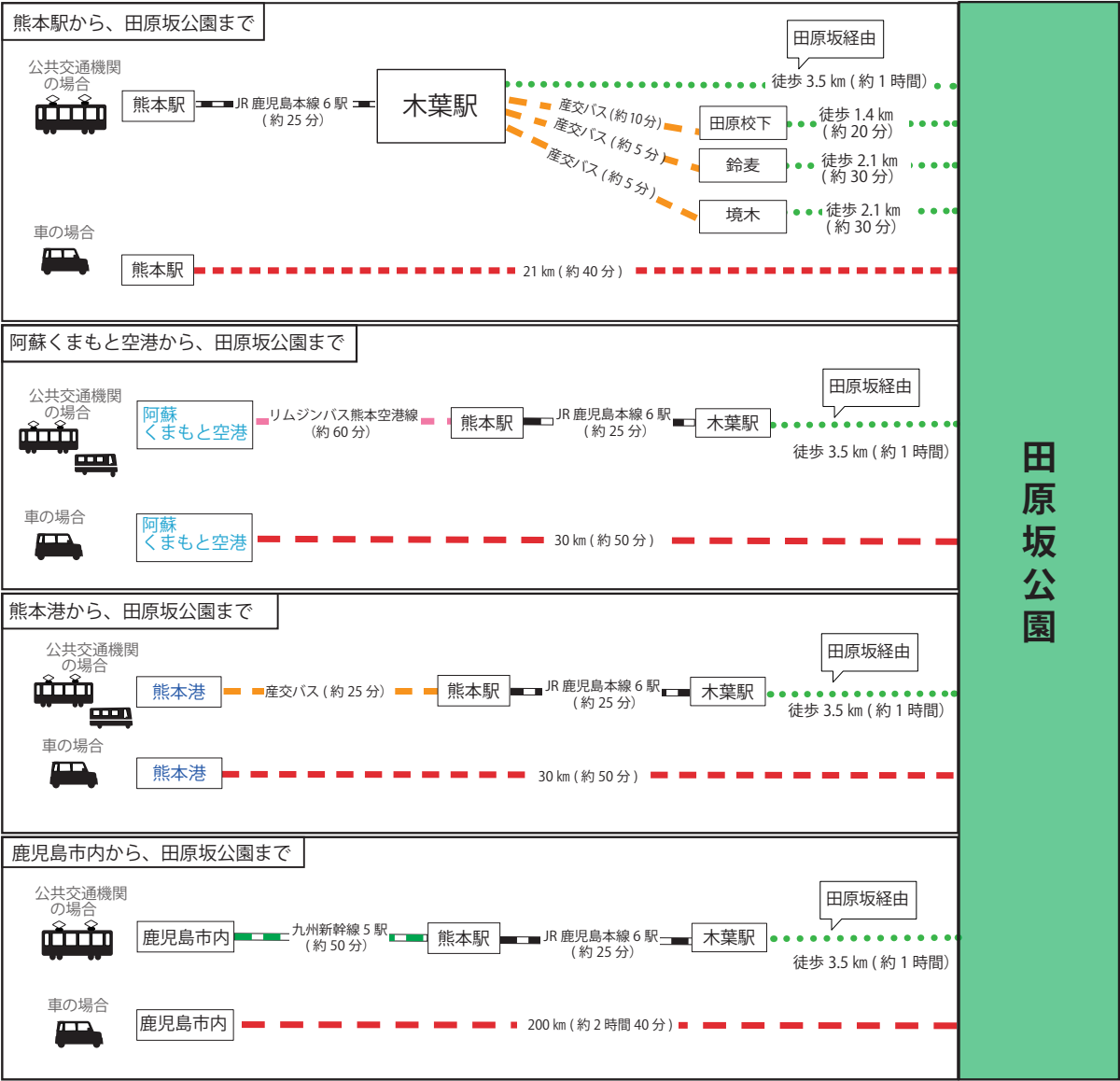


図 17 史跡へのアクセス時間

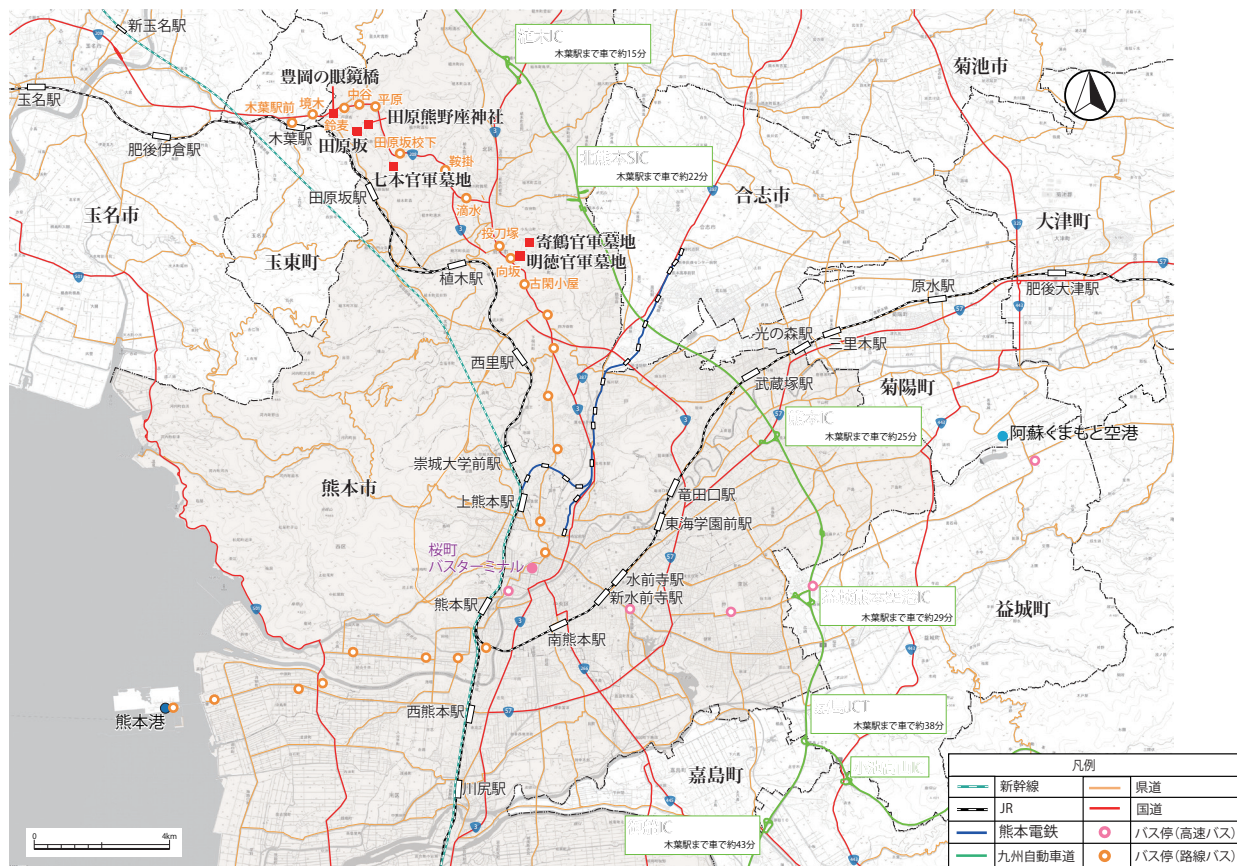


図 18 史跡へのアクセス

(3) 熊本市全体の産業

産業に関して、市全体で見ると全産業のうち約 34%をサービス関連産業が占めており、次点で卸売業・小売業が盛んである。そのほか、農業産出額は政令指定都市では上位にあり、本市産業の特徴となっている。その一方、製造業の割合が低く、人口一人当たりの市内総生産は政令指定都市平均を下回っている。また、有効求人倍率が政令指定都市の中でも高く、人手不足が深刻化している状況がある。しかしながら、近年半導体企業の進出をきっかけとした関連産業の集積が進み、地域経済の発展が期待されている。

西南戦争遺跡が所在する北区で見ると、事業所数・従業者数は市内 5 区の中で 4 番目の位置にある（図 19）。一方で、基幹的農業事業者は平成 27

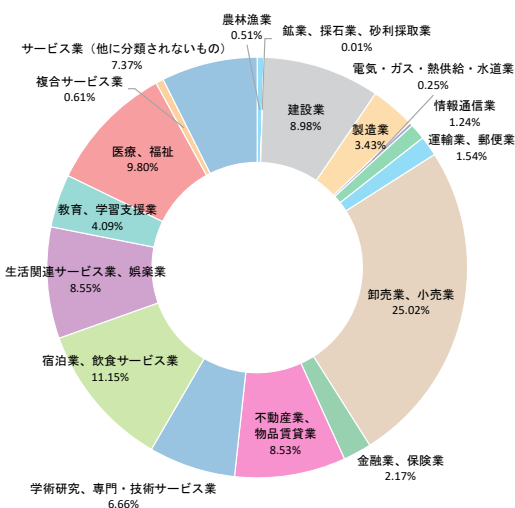


図 19 産業（小分類）別全事業所数

（参考：令和 3 年 <2021> 度経済センサス活動調査）

- 事業所とは、一定の場所を占めて、単一の経営主体の元で経済活動が行われている、あるいは従業者と設備を有して、物の生産や販売、サービスの提供が行われているものを指す。従業者とは当該事業所に所属して働いているすべての人を指す。
- 基幹農業者とは、15 歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者を指す。

年（2015）時点で5区中1位、令和2年（2020）時点でも2位であり、認定農業経営体も全区中³2位に位置する。新規農業就農者も令和2年（2020）年と比較してはいるが、令和6年（2024）は前年より増加しており、市内においては南区に次いで農業が盛んであると言える。史跡の近接地にもミカン畑が広がっており、そのほかスイカ、メロンなどの果樹・野菜の栽培が多い。このことから、前述の農業産出額は南・北・西の3区でその大部分を支えていると考えられる。

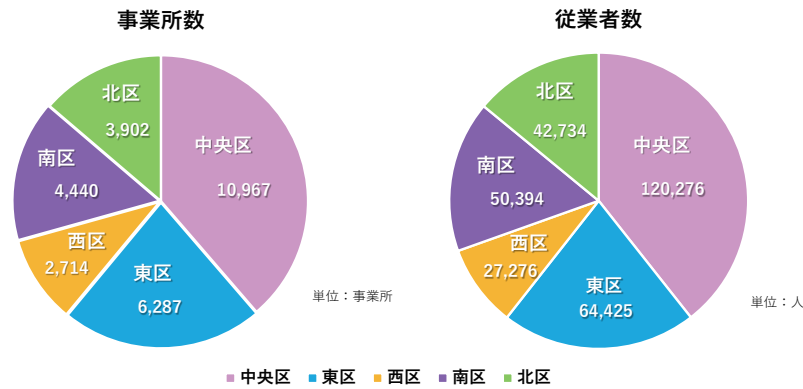


図20 事業所・従業員数（出典：熊本市北区地域カルテ）

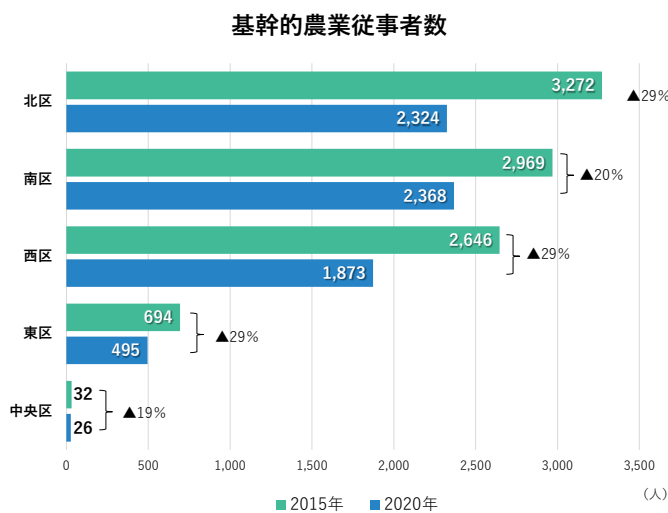


図21 基幹的農業従事者数（出典：熊本市北区地域カルテ）

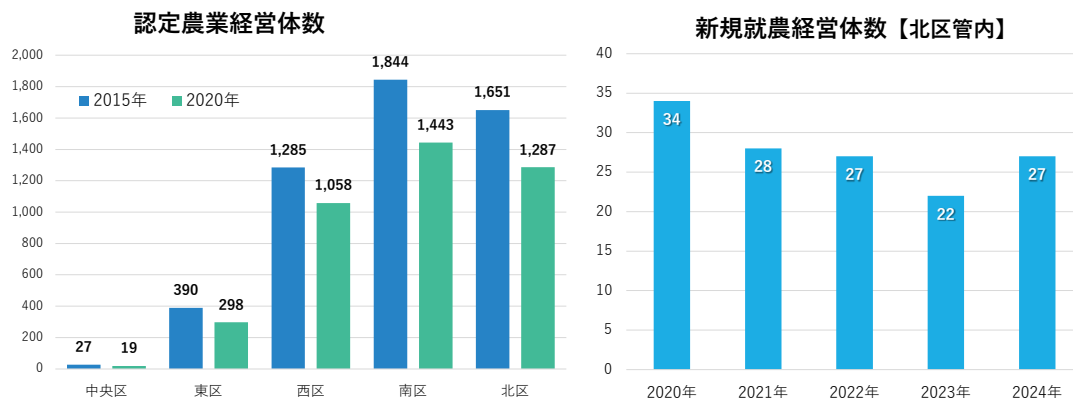


図22 認定農業経営体数と新規就農経営体数【北区管内】（出典：熊本市北区地域カルテ）

3 認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農地所有適格法人のこと

(4) 観光

市全体でみると、熊本城、水前寺成趣園、動植物園の3施設を核として観光客数は増加傾向にある（表2）。特に令和6年（2024）からは、円安の進行による訪日外国人の急激な増加（表3）や、半導体産業関連企業の熊本進出による台湾をはじめとしたアジア各国との観光・ビジネス交流が活発化している。阿蘇くまもと空港では国際線定期便の新規就航や増便が相次いだことで外国人観光客が大幅に増加している。国内旅行者は九州地方からが最も多く、県内、近畿地方と続く（参考：令和6年<2024>熊本市観光統計）。

表2-1 観光施設入園者数（令和6年<2024年>熊本市観光統計より抜粋）

施設名	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
熊本城（特別公開エリア入園者数）	360,855	844,916	1,303,929	1,418,105
桜の馬場 城彩苑	534,862	1,116,503	1,857,629	1,983,931
（うち熊本城ミュージアムわくわく座）	(85,040)	(182,038)	(250,974)	(281,210)
水前寺成趣園	135,517	219,078	345,633	440,093
熊本市動植物園	411,432	684,931	615,861	599,952
フードパル熊本	551,200	567,900	578,800	571,500
熊本博物館	55,546	93,236	106,829	99,729
水の科学館	20,433	31,938	46,687	63,199
峠の茶屋公園（資料館）	1,615	2,312	2,968	2,980
くまもと工芸会館	33,064	36,637	36,637	37,190
立田自然公園	3,392	6,020	5,407	4,505
北岡自然公園	3,073	3,950	4,580	3,179
旧細川刑部邸	34,549	29,464	49,164	(休館)
夏目漱石内坪井旧居	(休館)	(休館)	7,003	5,383
夏目漱石大江旧居	1,494	3,351	5,249	3,169
小泉八雲熊本旧居	2,236	5,290	7,983	6,835
徳富記念園	(休館)	49	1,278	971
横井小楠記念館	572	1,073	2,409	2,615
後藤是山記念館	341	570	492	466
リデル・ライト両女史記念館	365	891	971	1,186
御馬下の角小屋	689	1,080	1,244	1,044
熊本洋学校教師ジェーンズ邸	(休館)	(休館)	18,663	8,535
熊本藩川尻米蔵	(開館前)	(開館前)	1,107	2,065
森林学習館	1,302	2,241	2,661	3,125
熊本県伝統工芸館	65,112	63,412	68,141	37,193
熊本県立美術館 本館	38,104	95,046	220,674	77,622
熊本県立美術館 分館	44,965	43,227	47,811	38,901
くまもと文学・歴史館	21,376	33,274	39,727	38,319
監物台樹木園	2,679	(休館)	(休館)	8,986
岩戸観音・五百羅漢	9,697	11,127	11,817	13,617
島田美術館	3,156	2,895	3,732	4,720
新聞博物館	960	2,668	1,170	1,853

表 2-2 観光施設入園者数（令和 6 年 <2024 年> 熊本市観光統計より抜粋）

施設名	令和 3 年 (2021)	令和 4 年 (2022)	令和 5 年 (2023)	令和 6 年 (2024)
熊本国際民芸館	1,379	1,361	1,618	1,500
神風連資料館	411	476	532	1,640
金峰森の駅みちくさ館	5,918	8,698	12,145	9,711
熊本市現代美術館	124,079	82,380	98,782	174,998
熊本市塚原歴史民族資料館	1,718	2,790	3,599	4,724
田原坂西南戦争資料館	10,141	23,178	26,224	27,035
植木温泉	9,723	1,550	4,983	5,597
道の駅「すいかの里植木」	226,333	258,633	269,494	285,248
くまモンスクエア	65,981	96,305	222,034	451,867

※色付きは史跡周辺の施設

表 3 宿泊状況（令和 6 年 <2024 年> 熊本市観光統計より抜粋）

区分	令和 3 年 (2021)	令和 4 年 (2022)	令和 5 年 (2023)	令和 6 年 (2024)
国内客	1,831,821	2,563,376	3,099,895	3,133,840
外国人客	5,658	47,222	433,602	889,616
合 計	2,819,249	1,837,479	2,610,598	4,023,456

表 4 外国人の国・地域別宿泊者数（上段：国籍、下段：宿泊者数）

（単位：人）

年	順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位	その他	合計
平成 27 年 (2015 年)		台湾	中国	韓国	香港	タイ	米国	シンガポール	オーストラリア	フランス	ドイツ	11,097	108,033
		21,807	21,634	20,566	15,101	6,538	4,171	3,320	1,463	1,189	1,147		
平成 28 年 (2016 年)		台湾	中国	香港	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	ドイツ	フランス	11,657	104,404
		26,418	21,152	16,654	12,542	5,498	5,400	1,902	1,358	986	837		
平成 29 年 (2017 年)		台湾	中国	香港	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	カナダ	マレーシア	32,579	182,353
		46,170	33,134	27,832	20,607	7,657	4,816	4,304	2,103	1,672	1,479		
平成 30 年 (2018 年)		台湾	香港	中国	韓国	米国	シンガポール	タイ	オーストラリア	マレーシア	ドイツ	29,830	235,338
		59,079	46,060	44,640	29,888	7,604	5,715	5,030	2,748	2,628	2,116		
令和元年 (2019 年)		中国	台湾	香港	韓国	米国	フランス	マレーシア	タイ	シンガポール	イギリス	71,668	342,649
		67,356	63,895	50,622	29,592	12,739	11,166	10,459	9,460	8,191	7,501		
令和 2 年 (2020 年)		台湾	中国	香港	米国	韓国	マレーシア	タイ	シンガポール	イギリス	オーストラリア	7,774	48,977
		10,623	10,369	9,122	3,964	2,977	1,158	1,000	894	578	518		
令和 3 年 (2021 年)		ドイツ	米国	インドネシア	中国	韓国	ロシア	タイ	イギリス	台湾	フィリピン	1,563	5,658
		1,141	821	718	655	230	186	133	79	66	66		
令和 4 年 (2022 年)		台湾	米国	韓国	香港	中国	タイ	シンガポール	インドネシア	カナダ	マレーシア	15,977	47,222
		6,109	5,771	5,460	4,312	3,675	2,592	1,922	577	418	409		
令和 5 年 (2023 年)		台湾	香港	中国	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	カナダ	ドイツ	104,635	433,602
		112,219	59,279	57,298	46,141	15,232	14,677	11,604	5,086	3,797	3,634		
令和 6 年 (2024 年)		台湾	中国	香港	韓国	米国	シンガポール	タイ	オーストラリア	マレーシア	フランス	132,167	889,616
		296,844	177,557	110,797	80,266	25,676	22,883	21,559	8,034	7,243	6,590		

一方、史跡周辺にはガイドンス施設である田原坂西南戦争資料館があり、道の駅「すいかの里植木」、植木温泉などの観光施設も所在している。いずれの施設も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため一時来訪者が減少したが、令和5年（2023）より徐々に増加している。⁴

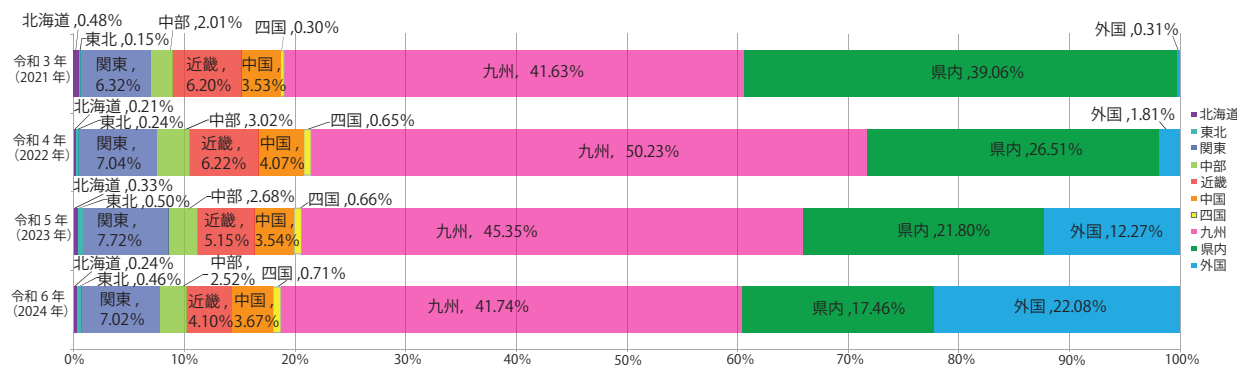


図23 近年の地区別入込状況（出典：令和6年<2024年>熊本市観光統計）

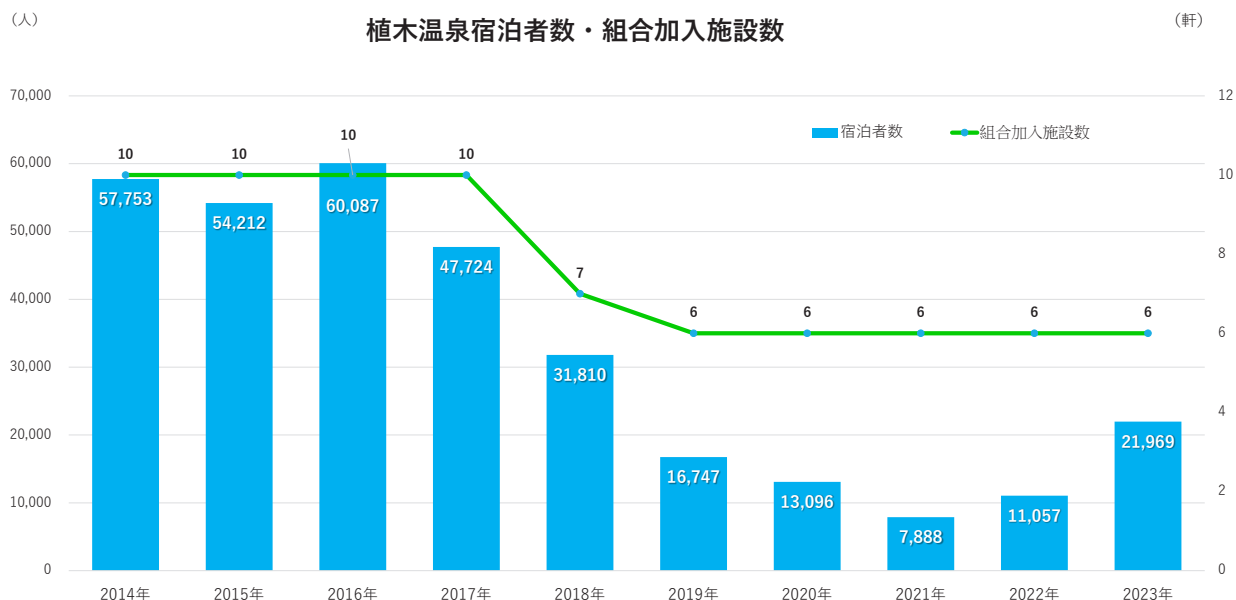


図24 植木温泉宿泊者数・組合加入施設数（出典：熊本市北区地域カルテ）

4 表2-2における植木温泉の人数は日帰り温泉の利用者数であり宿泊者数とは異なる。

第3節 歴史的環境

(1) 史跡周辺の歴史

史跡周辺の遺跡に関しては別表「周辺遺跡一覧表」の通りである。過去の調査により、最も古いものでは旧石器・縄文時代の遺跡も確認されているが、主体は平安時代前期（9世紀前半）の遺跡である。特に神ノ木川・菖蒲川流域において濃密であり、この地域の主な遺跡では土師器焼成遺構を検出した田子山遺跡、越州窯系青磁水注（市指定文化財）を供献した土墳墓を検出した塔ノ本遺跡、3×3間の礎石が並ぶ基壇が検出され塔が存在したとみられる富応廃寺が挙げられる。これらが所在する台地に囲まれ、菖蒲川によって開析された比較的広い谷部には「五反田」「六反田」と言った数詞地名（小字）が見られる。開発等によって当時の地割は不明だが、当時条里制に基づく耕地整備がなされ上記の遺跡が成立する基盤になったと考えられる。現在の植木町域は、古代山本郡の範囲とほぼ同じである。山本郡は貞観元年（859）に合志郡から分立したものであり、上記の遺跡分布の状況が分立の契機と関連があると考えられる。

周辺では中世の資料も多く存在し、埋蔵文化財のほかに寺社や石造物などが見られる。石造物は豊岡台地に多く分布しており、田原の五輪塔（市指定文化財）、舟底五輪塔（県指定文化財）など鎌倉期の五輪塔のほか、戦国期の板碑も見られる。当該地域の中世においては、寿永年間（1182～1184）創建とされる龍源寺跡や田原熊野座神社などが中世肥後最大の在地領主・菊池氏の創建と伝わっており、当該地域を含む山本郡最大の荘園（山本荘）を菊池氏が荘官職として支配していたとみられる。少なくとも平安時代末期には菊池氏の勢力が伸長していたと考えられ、植木町内に菊池氏創建と伝わる寺社が多いこともこのことを反映していると思われる。中世後期においては、菊池氏に属し、菊池氏滅亡後も戦国期末まで山本郡最大の国人領主として続いた内古閑氏の支配下にあったとみられ、大平城跡・内古閑城跡・荒平城跡などが内古閑氏の居城と伝わる。以上、中世遺跡の多くは、菊池氏・内古閑氏との関連が想定し得る。

近世に入ると、旧植木町一帯は正院手永⁵に属した。植木町は元々味取町（現 植木町字味取）から分かれたもので「味取新町」とも称され、元禄期には町としての様相を呈していたと言われる。植木町の中心を通る豊前街道からは三池往還・大津町道などが分岐していた。特に三池往還は田原坂・高瀬を経て大牟田方面へと向かう道で、ほかの街道に比べて平坦な道が続き、唯一の難所といえるのが田原坂であった。そのため西南戦争の際には政府軍の主要南下経路として選ばれ、田原坂での戦いが最大の激戦となった。

近代に入ると行政区画の改正が行われ、正院手永は「正院郷」と改められた。明治8年（1875）の段階で正院郷は第五大区七小区に属し、16村1町で構成された（水島貫之編『白川県下区画便覧』）。明治初期は地租改正や秩禄処分、廃藩置県、徴兵制など明治政府が次々に断行した政策に対し人々の不満が高まり、全国的に農民運動や反乱が問題となった。同時に政治運動も活発になり、明治8年（1875）には正院手永会所跡地（現 植木小学校）を利用して民権党⁶が「植木学校」を設立、自由民権論を主張する教育を実践した（同年10月に閉校）。翌年には同党の宮崎八郎が、戸長の公選を主張して当時の県令・富岡敬明に建議書を突き付ける事件が起きた。これを契機として山鹿町

5 肥後細川藩初代藩主・細川忠利が導入した行政単位。数か村～数十か村をまとめたもの。

6 宮崎八郎（宮崎滔天の長兄）、平川惟一らを中心として自由民権論を主張した集団。のちに構成員の多くが「熊本協同隊」として西南戦争に従軍する。

(現 山鹿市)や植木町などの一帯で戸長征伐が始まり、同年に起きた神風連⁷の変と相まって熊本内での西南戦争への機運が徐々に高まっていった。

明治10年(1877)2月に西郷隆盛が鹿児島を発ち、熊本に到着。同月22日に熊本城総攻撃が始まり、同月末には別動隊が田原坂・山鹿方面に進行すると3月4日より「田原坂の戦い」が開戦した。戦闘中、近隣住民は放火や流れ弾、食料の強奪などの被害を受け、炊き出しや荷運びなどの負担も課せられた。3月20日に「田原坂の戦い」は終結するが周辺では戦闘が続き、4月14日の熊本城解放に伴い西郷軍が熊本を去ったことで徐々に復興が始まった。戦死者の埋葬についても、同年6月には轟村・円台寺村(現植木町轟、円台寺)で戦死した西郷軍兵士たちの合葬に関する手続きが行われ、現在の七本柿木台場薩軍墓地の原型が地元住民の人々の手で形作られた。

明治期の旧植木町の主産物は米・大豆・小豆・裸麦などであったが、大正時代に入ると葉煙草の耕作が始まり、大正11年(1922)ごろには山本郡全体でスイカ栽培が盛んになった。交通においては明治24年に九州鉄道が福岡まで延びたことに伴い植木駅が設置された。大正6年(1917)には鹿本鉄道が運行を始め、同13年(1924)に植木ー山鹿間が開通完成し農産物・林産物などの貨物が行き交うようになった(昭和40年廃線)。

昭和30年(1955)に田原・菱形・桜井・山東・吉松・山本の各村と植木町が合併して新たな植木町が発足し、昭和44年(1969)に田底村を編入した。平成22年(2010)に熊本市と合併して現在へと至っている

史跡周辺の遺跡において最も大きな特徴は、西南戦争で主戦場となった豊岡台地上だけでなく広い範囲で少量ながらも小銃弾等の西南戦争関連遺物が出土することである。銃砲弾は発射されれば数百メートル以上移動するため、出土地を戦場跡と即時判断することはできないものの、戦場が一部飛火または拡大した可能性を示すものといえる。また、豊岡台地南側の大字轟の台地上には、七本官軍墓地と前述の七本柿木台場薩軍墓地が存在している。

(2) 顕彰の歴史

西南戦争は戦後すぐに戦死者の慰霊と顕彰が始まっている。明治11年(1878)には官軍墓地が一斉に整備され、熊本市側は七本官軍墓地・明德官軍墓地・寄鶴官軍墓地が、玉東町側は高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地が現在につながる姿となった。薩摩軍側もほぼ同時期に地元の人々の手によって墓地が造成されている。

明治13年(1880)には、現在の田原坂公園内に崇烈碑が建立された。陸軍省本部が主体となり、西南戦争における田原坂の戦いの意義を高めて政府軍戦死者の顕彰を目的とした事業であった。材料には白く荘厳な印象を与える八代産石灰岩が用いられ、篆額と撰文は征討軍総督有栖川宮熾仁親王によって行われた。その後も長年にわたって西南戦争の戦跡や戦没者を顕彰・慰霊する標柱や石碑等が建立され続けた。熊本市や玉東町周辺において戦前までに建造された現存石碑等については別表のとおりである。戦後に入っても新たな顕彰碑や戦跡の案内表示、説明板などの設置が有志の方々によって行われている。その多くは現在も地域活動の推進や生涯学習等に供している。

7 明治9年(1876)に敬神党(別名神風連)が決起した士族反乱。熊本城下周辺に居住していた県官や陸軍将校を襲撃し、歩兵営や砲兵営に放火した。騒動は一夜で終息したが、敗走した敬神党の構成員の一部は鐙田杵築宮(植木町字鐙田)に潜伏し、同宮司たちの援助を受けながら再起を図る機会をうかがっていた。

記念碑等の建立以外では、現在の田原坂公園が大正12年（1923）4月に古戦場跡が地元有志の手によって公園化され（大正12年4月9日『九州日日新聞』）、戦後80年にあたる昭和32年（1957）には旧植木町が主体となって公園域を拡大、敷地内に両軍の戦死者の名前と出身地を刻んだ「西南役戦没者慰霊之碑」を建立した。

その後、平成25年（2013）に国の史跡に指定される以前まで、公園敷地内で記念植樹や地元ゆかりの著名人の石碑等の建立が行われた。現在では、地元の小学生や顕彰会などの手により田原坂の戦いが終結した3月20日に合わせて公園内で戦没者慰霊祭が行われている。また、指定地以外の各地でも戦没者の慰霊や西南戦争の顕彰を目的とした祭祀や講演会などが有志の手によって催されており、本市内では熊本三州会による川尻の延寿寺と段山^{だにやま}で行われる慰霊祭、熊本城顕彰会主催の西南の役記念講演会等が代表的である。



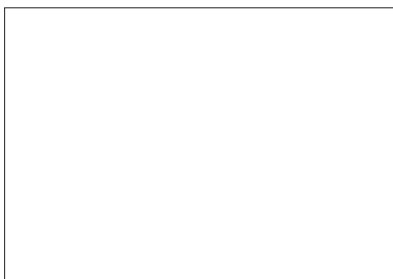
健軍神社の熊本隊出陣の碑



熊本城二の丸の西南の役回顧之碑



西南役田原坂百周年記念碑



段山薩軍墓地等の写真

表 5-1 熊本市と玉東町に現存する顕彰碑等

年	月日	碑銘	場所	造立者ほか	備考
明治 11 年 (1878)	8 月	七本官軍墓地整備	北区植木町七本	造立：陸軍省	
	不明	明德官軍墓地整備	北区明德町	造立：陸軍省	
	10 月	薩軍墓地の墓標建立 (現存せず)	北区植木町轟、滴水、 荻迫、円台寺	造立：各地域住民	現在の七本柿木台場薩軍墓地 ほか
明治 12 年 (1879) ※三回忌	3 月	「佐賀台湾熊本鹿児島 四役戦死弔魂之碑」建立	清爽園（中央区宮内）	造立銘無し（陸軍省工 兵第六方面本署） 題字揮毫：乾堂栄（小 曾根乾堂）	
	9 月 4 日	「斤斤其明」建立	清爽園	造立：発起人 17 名（熊 本県の有志） 題字揮毫：有栖川熾仁 親王 碑文撰：谷干城 碑文書：田中顕義	碑文頭「熊本県人殉難碑」、島 崎石工雨森次平
	10 月 25 日	「丁丑殉難之碑」建立	小峯墓地（中央区黒 髪）	造立：生存者・遺族 18 名（宇野東風・三 浦喜傳の名あり）	正面に池辺以下 55 名連記、 昭和 7 年 3 月に現在地に移建
明治 13 年 (1880)	10 月	「崇烈碑」建立	田原坂公園	造立：陸軍省 題字揮毫：有栖川宮熾 仁親王 撰：有栖川宮熾仁親王 書：秋月新太郎	白島石灰岩製
明治 15 年 (1882)		薩軍墓地に墓標建立 (現存せず)	七本柿木台場薩軍墓 地		
明治 16 年 (1883) ※七回忌	(2 月～3 月)	(薩軍墓地の遺骨を遺 族が持ち帰る)	(植木町轟、滴水、荻 迫、円台寺)		
明治 18 年 (1885)	12 月某日	「丁丑感旧之碑」建立	小峯墓地	造立：発起人宮川員衛 以下 21 名、周旋人相 部又七郎	正背面ほかの 4 面に氏名連記、 発起人には佐々友房も、元は 手取本町（大正 2 年移築）
明治 22 年 (1889) ※十三回忌		(金峰山地震)			
明治 23 年 (1890)	(2 月 22 日)	(熊本籠城会の開催)	(靖国神社)		(以降、2 月 22 日を祭日とし て恒例化)
	3 月	標柱「明治十年之役 戦死者墳墓地」建立	七本官軍墓地・明德 官軍墓地・寄鶴官軍 墓地	造立：熊本県	
明治 24 年 (1891)	8 月 20 日	標柱「明治十年之役 官軍戦死者墳墓地」 建立	高月官軍墓地・宇蘇 浦官軍墓地	造立：熊本県	

表 5-3 熊本市と玉東町に現存する顕彰碑等

年	月日	碑銘	場所	造立者ほか	備考
昭和 11 年 (1936)	2 月 22 日	「熊本各隊出陣之处 碑」建立	東区健軍神社前	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 碑文撰：丁丑感旧会評 議員参戦者宇野東風 碑文書：丁丑感旧会員 松山嘉一郎	
	2 月 26 日	「佐々隊死守之处」建 立	玉東町吉次峠	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 碑文撰：丁丑感旧会評 議員参戦者宇野東風 碑文書：丁丑感旧会員 松山嘉一郎	
	3 月 15 日	「熊本諸隊奮戦处」建 立	七本柿木台場薩軍墓 地	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 撰：丁丑感旧会評議員 参戦者宇野東風 書：丁丑感旧会員松山 嘉一郎	
	10 月 17 日	「戦後 60 年碑」建立	川尻延寿寺	造立：熊本市三州人会	
昭和 12 年 (1937) ※戦後 60 年	10 月	「守城将軍谷干城」建 立	熊本城	造立：西南戦争六十年 会 碑文撰：僧五岳（漢詩）	金属供出後、昭和 44 年再鑄
	11 月	（谷村計介の銅像を譲 り受けた経緯を記し た石碑）	熊本城	造立：西南戦争六十年 会	
昭和 15 年 (1940) ※皇紀 2600 年	3 月 30 日	「建碑の記」建立	吉次峠	造立者：発起人	安達謙蔵碑の造立経緯を記す 副碑
	4 月	「克堂佐々先生詩歌之 碑」建立	吉次峠	造立：不明 書：安達謙蔵	緑泥片岩（非在地）
	4 月 3 日	「谷村計介碑」建立	吉次峠	造立：山北村 題字揮毫：元山北校長 三池 弘？ 撰：山北村長坂田武彦 書：元山北校長三池 弘	
昭和 17 年 (1942)	4 月	「山縣有朋歌碑」「建 碑ノ記」建立	北区植木町木留	造立：西南戦蹟顕彰会	
	7 月	「熊本隊本営跡」「薩 軍本営跡」「薩軍病院 跡」「乃木大将詩碑」 建立	北区植木町笹尾	造立：西南戦蹟顕彰会	
昭和 18 年 (1943)	3 月	「西南役激戦蹟」建立	横平山公園	造立：西南戦蹟顕彰会 題字揮毫：西南戦蹟顕 彰会長赤星典太 撰：西南戦蹟顕彰会理 事・陸軍大佐小島徳貞	
		「西南役官軍本営出張 所跡」「西南役官軍砲 兵陣地跡」建立	玉東町二俣瓜生田	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「西南役官軍砲兵陣地 跡」建立	玉東町二俣古閑	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「西南役薩軍砲兵陣地 跡」建立	玉東町立岩	造立：西南戦蹟顕彰会	

表 5-2 熊本市と玉東町に現存する顕彰碑等

年	月日	碑銘	場所	造立者ほか	備考
大正 5 年 (1916)	1 月	「西南役薩軍戦歿者墓碑」建立	南区川尻延寿寺	題字揮毫：従四位勲三等川上親晴	本来は基壇に金属扉（金属供出）
	2 月 22 日	「与倉連隊長戦跡之碑」建立	中央区宮内藤崎台童園下、旧片山邸	造立：歩兵第十三連隊将校団	近年移設（元童園敷地内）、元は基壇あり、建立日は命日
	6 月 4 日	「西南役薩軍戦歿者合葬墓碑建設趣意之碑」建立	川尻延寿寺	造立：発起人肥後八次以下 13 名	西南役薩軍戦歿者墓碑の副碑
大正 10 年 (1921)	不明	寄鶴官軍墓地墓標再建		造立：熊本県	
大正 12 年 (1923)	4 月 8 日	田原坂公園開園式	田原坂公園		
	5 月	「籠城将校家族避難之跡」建立	熊本城（中央区本丸）	造立：不明	
	9 月	「拳兵始末碑」建立	小峯墓地	造立：旧熊本隊生存者中	丁丑感旧之碑の左（基礎・基壇含め左右同形態）、正面の他 3 面に熊本隊士氏名連記、
無（拳兵始末碑と同じカ）		「自誓書碑」建立	小峯墓地	造立：不明（拳兵始末碑と同じカ）	丁丑感旧之碑の右（基礎・基壇含め左右同形態）、4 面に熊本隊士氏名連記
大正 13 年 (1924)	6 月 5 日	冊子『田原坂附近戦蹟案内』刊行		発行：帝国在郷軍人会木葉分会	
大正 14 年 (1925)	4 月	「記念」碑建立	田原熊野座神社	造立：坂本 昇他当村氏子中 撰書：杉谷 正	兵火を受け鹿児島に持ち帰った御神体の返却とその記念の玉垣建設
昭和元年 (1926) ※五十回忌	6 月	「忠烈」碑建立	熊本城	篆額：元帥陸軍大将伯爵奥保鞏 撰：徳富猪一郎 書：陸軍中将鑄方徳蔵	谷村計介の功績を称賛する内容
昭和 2 年 (1927) ※戦後 50 年					
不明 (昭和 2 年〈1927〉 3 月 10 日)		「…位谷村計介」建立	熊本城	造立：不明（山下宇太郎等有志）	現存せず、金属供出（昭和 18 年 6 月 12 日壮行会）。鈴木喬の本参照
昭和 3 年 (1928)	1 月 11 日	「伍長谷村計介戦死之地」建立	田原坂二の坂	造立：不明 題字揮毫：陸軍中将鑄方徳蔵 撰書：正七位鶴田 貞（陸軍砲兵大尉、明治 28 年叙位）	植木町史 942・943 頁に記述あり。鑄方徳蔵は熊本県出身。大本営陸軍幕僚参謀
	11 月 10 日	「乃木大将記念碑」建立	北区植木町舞尾	造立：不明 題字揮毫：陸軍中将鑄方徳蔵 撰書：正七位鶴田 貞（陸軍砲兵大尉、明治 28 年叙位）	
昭和 7 年 (1932)	7 月	「束野孝之丞戦没碑」建立	北区植木町荻迫（荻迫台場）	造立：沢田延音 題字揮毫：陸軍大臣荒木貞夫	石工は指宿村春田栄
昭和 9 年 (1934)	6 月	「明治十年戦役南洲翁本営跡」建立	川尻	造立：鹿児島市有志 35 人・熊本市有志・川尻町有志	
	11 月	「西南役薩軍戦死者慰霊塔」建立	段山（井芹川沿い）	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：第六師団永香椎浩平 碑文撰：丁丑感旧会長三浦喜傳	
昭和 10 年 (1935)	3 月 4 日	「薩軍一番大隊長篠原国幹戦没之地」建立	玉東町原倉	造立：熊本県三州会 題字揮毫：陸軍大将田中国重	基礎背面に修理経緯文追刻、田中国重は鹿児島県出身
	5 月	「壯圖弔夢（右）・遺熊子□（左）」建立	小峯墓地	造立：寄進元池辺大隊佐々中隊麾下三浦喜傳	

表 5-4 熊本市と玉東町に現存する顕彰碑等

年	月日	碑銘	場所	造立者ほか	備考
昭和 18 年 (1943)	10 月	「薩軍砲兵陣地 (趾)」 建立	玉東町稲佐神社	造立：西南戦蹟顕彰会	大形・基壇は自然石組み
		「漢詩碑」建立	高月官軍墓地	造立：西南戦蹟顕彰会	依田百川による松少佐を称える詩
		「官軍本営趾」建立	玉東町上木葉	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「征討総督有栖川宮督 戦趾」建立	丸田公園	造立：西南戦蹟顕彰会 題字揮毫：細川護立 撰：西南戦蹟顕彰会理事・ 陸軍大佐小島徳貞	大形、碑身は上細・下太、基 壇幅広い、銘板は平成 8 年改 修
不明		「小峰陸軍埋葬地 (3 面同じ)」建立	黒髪	造立：不明	
不明		歩兵十三連隊第三大 隊第一中隊下士兵卒 中 (右) 歩兵十三連隊第三大 隊第二中隊下士兵卒 中 (左)」建立	清爽園	造立：不明	燈籠。「佐賀台湾熊本鹿児島四 役戦死弔魂之碑」の前方に設 置
不明		「西郷隆盛先生本営之 趾」建立	北岡神社	造立：不明 題字揮毫：陸軍大将菱 刈隆	菱刈の大将在任は昭和 4 ～ 10 年
不明		「西郷隆盛先生本営之 趾」建立	二本木神社	造立：不明 題字揮毫：海軍大将山 本英輔	山本 (鹿児島出身) の大将在 任は昭和 6 ～ 11 年
不明		「灯籠 1 対 (銘無し)」 建立	川尻延寿寺	造立：不明	豊島石製 (非在地石材)
不明		「乃木第十四連隊長奮 戦趾」建立	玉東町稲佐	造立：不明	脇の稲佐神社鳥居は山口小柳 文七建設
不明		「西南戦蹟塹壕趾碑」 建立	横平山公園	造立：不明	
不明		「田原坂攻撃官軍第一 線陣地趾」建立	玉東町境木	造立：不明	
不明		「官軍病院趾」建立	正念寺	造立：不明	
不明		「官軍病院趾」建立	徳正寺	造立：不明	

第4節 史跡周辺の文化財

(1) 周辺遺跡一覧

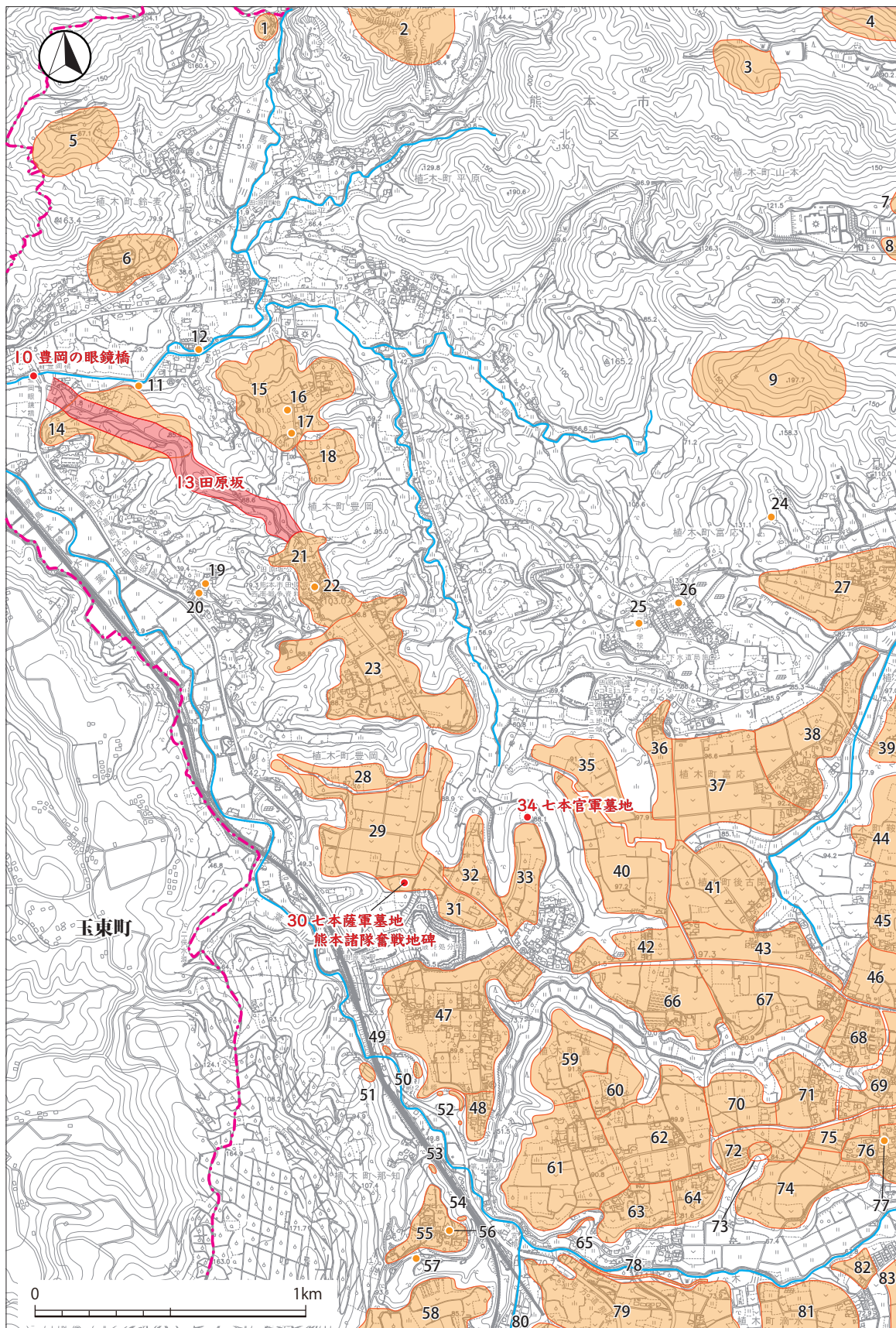


図 25 周辺遺跡分布図

表6 周辺遺跡一覧

※番号は図21に対応

番号	名称	主な時代	番号	名称	主な時代
1	鈴麦浦田遺跡	古代	42	田子山遺跡	縄文・平安
2	大平城跡	中世	43	迎畑遺跡	縄文・弥生・平安・中世
3	正院浦遺跡	平安	44	後野遺跡	縄文・平安・中世
4	内空閑城跡	中世	45	鞍掛山遺跡	中世
5	平須恵器窯跡群	平安	46	南畑遺跡	縄文・平安・中世
6	鈴麦平畑遺跡	古代・中世	47	埋原畑遺跡	縄文・平安・中世
7	北楠原遺跡	平安	48	埋原城跡	中世
8	南楠原遺跡	平安	49	埋原1号洞穴	弥生～古代
9	荒平城跡	中世	50	埋原2号洞穴	弥生～古代
10	豊岡の眼鏡橋	江戸	51	那知1号洞穴	弥生～古代
11	谷の板碑	中世	52	埋原3号洞穴	弥生～古代
12	谷の眼鏡橋	昭和	53	那知2号洞穴	弥生～古代
13	田原坂	明治	54	那知3号洞穴	弥生～古代
14	岡林遺跡	縄文・中世	55	龍原寺跡	中世
15	田原城跡 田原寺跡	平安・中世	56	龍原寺跡板碑	中世
			57	龍原寺跡十二仏龕仏	中世
16	田原古墳	古墳	58	生野原遺跡	縄文・平安・中世
17	田原の五輪塔附板碑	中世	59	轟芝原遺跡	縄文・弥生・平安
18	宮ノ前遺跡	中世	60	五次郎丸遺跡	平安・中世
19	舟底の十一面観音立像	室町	61	轟辻畑遺跡	縄文・平安・中世
20	舟底五輪塔附板碑	鎌倉	63	下道丸遺跡	縄文・中世
21	舟底遺跡	古代・中世	64	轟城跡	中世
22	田原坂公園板碑	室町	65	轟横穴群	古墳
23	藤原遺跡	縄文・平安・中世	66	轟田中原遺跡	縄文・弥生・平安
24	富応廃寺	古代	67	塔ノ本遺跡	旧石器～弥生・奈良～中世
25	穴観音古墳	古墳			
26	丸塚古墳	古墳	68	乗尾遺跡	弥生
27	西山遺跡	縄文・平安・中世	69	大道端遺跡	縄文・弥生・平安・中世
28	中久保遺跡	縄文・鎌倉・室町	70	轟今古閑遺跡	弥生・古墳・平安
29	立花木遺跡	縄文・平安・中世	71	轟遺跡	弥生・古墳・平安
30	七本薩軍墓地 熊本諸隊奮戦地碑	明治	72	尖り遺跡	縄文・弥生・奈良～近世
			73	城之内古墳	古墳
31	鎌地遺跡	中世	74	滴水西原遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
32	柳迫遺跡	縄文・中世	75	内山遺跡	縄文・弥生・平安・中世
33	多尾遺跡	縄文・平安・中世	76	滴水館遺跡・滴水館跡	縄文～中世
34	七本官軍墓地	明治	77	無名墳	古墳
35	富応田中原遺跡	旧石器・縄文	78	ヲスギ横穴群	古墳
36	外土井遺跡	縄文・平安	79	ヲスギ遺跡	縄文・弥生・平安・中世
37	富応久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世	80	河原立遺跡	縄文・弥生・平安・中世
38	富応芝原遺跡	平安	81	滴水向原遺跡	縄文
39	原口遺跡	縄文・平安・中世	82	松村刀鍛冶跡	江戸
40	沖野遺跡	縄文・平安	83	平野西原遺跡	弥生・平安・中世
41	後古閑立野遺跡	縄文・弥生・平安・中世			

(2) 周辺の西南戦争関連資料一覧

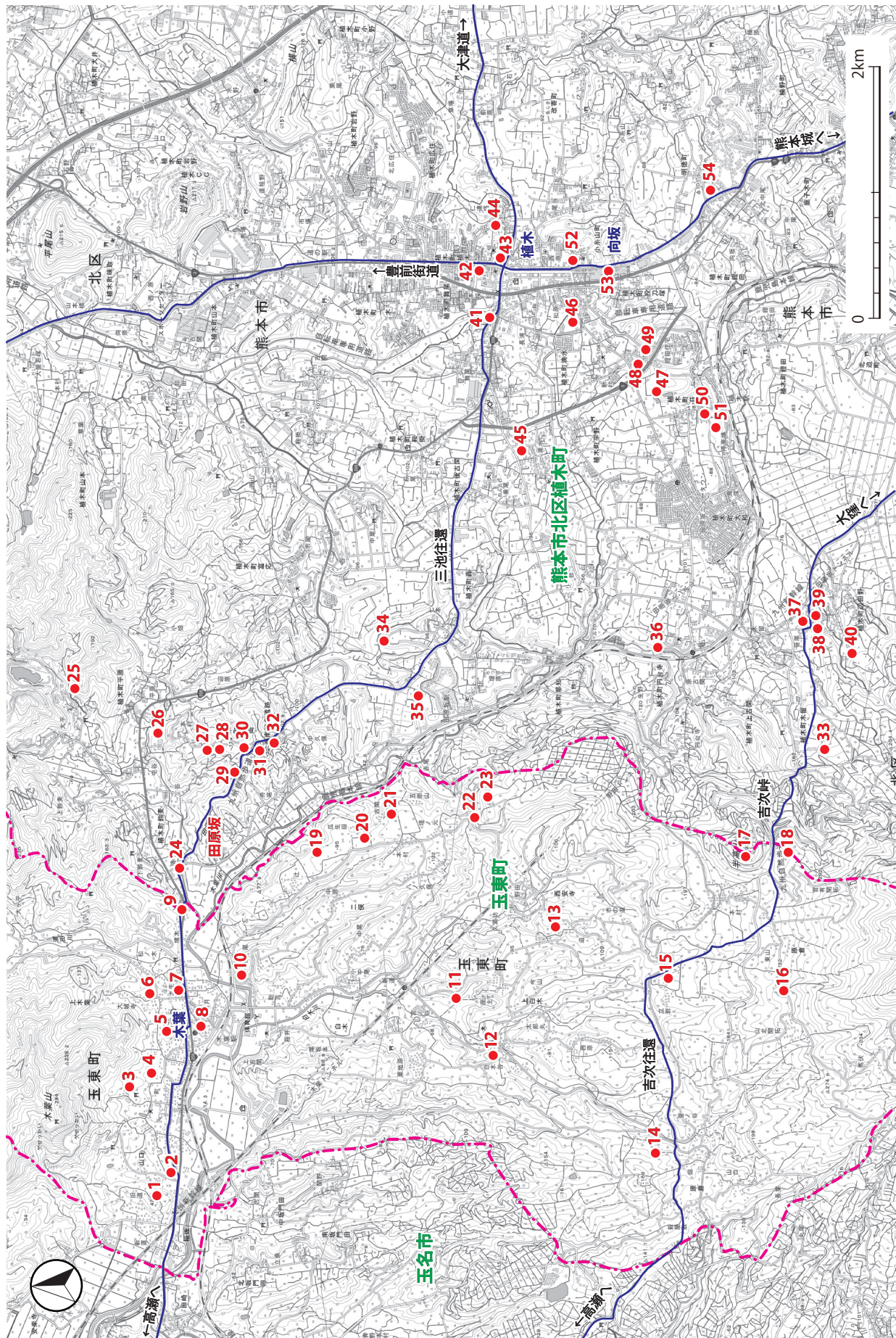


図 26 周辺の西南戦争関係資料分布図

表7 周辺の西南戦争関係資料一覧

※番号は図22に対応、名称は通称

番号	名 称	番号	名 称
1	稲佐神社（薩軍砲台跡）	28	田原熊野座神社（宮ノ前戦跡、社殿・鳥居・灯籠等に弾痕・銃砲弾）
2	乃木希典奮戦の地碑	29	谷村計介之碑・西南の役戦没者慰霊碑
3	宇蘇浦官軍墓地	30	弾痕の家（松本家土蔵）跡地
4	徳成寺（政府軍繃帯所）	31	田原坂公園北側（戦跡、崇烈碑、大クスに金属反応）
5	丸田公園（有栖川宮督戦の地碑）	32	田原坂公園南側（戦跡、80周年慰霊碑）・田原坂西南戦争資料館
6	上木葉官軍本営跡	33	山縣有朋歌碑
7	正念寺（政府軍繃帯所、山門・石段等に弾痕・小銃弾）	34	七本官軍墓地
8	高月官軍墓地	35	七本薩軍墓地・熊本諸隊奮戦地碑（薩摩軍七本柿木台場跡）
9	田原坂攻撃官軍第一線の地碑	36	河原立薩軍墓地
10	櫻田惣五郎（熊本隊参謀）辞世詩碑	37	薩軍病院跡
11	上白木弾痕の家跡（柱に砲弾痕、現田原坂資料館展示）	38	熊本隊本営跡
12	薩軍三勇士の墓	39	薩軍本営跡
13	白山宮（灯籠に弾痕）	40	辺田野熊野座神社（乃木希典詩碑、社殿に弾痕）
14	原倉西官軍砲台跡	41	乃木大将記念碑（伝千本桜）
15	立岩砲台跡	42	薩摩軍弾薬庫跡
16	篠原国幹戦没の地碑	43	植木学校跡（植木学校指導者が後に熊本協同体を結成）
17	半高山公園（半高山戦跡）	44	仁連塔神社（社殿に弾痕・小銃弾）
18	吉次公園（吉次峠戦跡、佐々友房の詩碑・谷村計介碑）	45	滴水官軍本営跡
19	二俣瓜生田官軍砲台跡	46	石塔台場跡（近くの墓地の墓石に弾痕）
20	官軍本営出張所跡（石積に弾痕）	47	荻迫柿木台場、薩摩軍美少年の墓
21	二俣古閑官軍砲台跡	48	山頭遺跡第4次調査地（政府軍陣地跡）
22	薩軍兵站の地	49	山頭遺跡第5次調査地（薩摩軍陣地跡）
23	横平山公園（横平山戦跡）	50	荻迫観音（石祠に弾痕）
24	豊岡の眼鏡橋（政府軍攻撃基点）	51	荻迫神社（社殿に弾痕・小銃弾）
25	平原の民家跡（柱に小銃弾）	52	植木天満宮（向坂緒戦の地跡）
26	豊岡小学校跡地（北平古道戦跡）	53	河原林少尉戦死の碑
27	田原の五輪塔（弾痕多数、近くの墓地の墓石にも弾痕）	54	明徳官軍墓地（向坂官軍墓地）

第3章 史跡の概要

第1節 指定に至る経緯

熊本市の西南戦争遺跡は、明治10年（1877）に起きた西南戦争で激戦地となった田原坂本道とその周辺で構成された史跡である。第1章第1節や第2章第3節に記載したように、本史跡の顕彰活動は西南戦争終結直後から現在に至るまでの長きにわたって、地域住民や遺族による戦没者の慰霊や周知啓発、旧植木町時代の公園整備など官民を越えた取組が続けられてきた。調査が始まる以前から史跡周辺では小銃弾や四斤砲弾の破片、金属製品等の西南戦争時の遺物が採取されており、遺跡の残存状態が良好であることが明らかであった。

このような中で、平成8年（1996）に文化庁から通知された「近代遺跡調査実施要項」、平成15年（2003）11月の文化庁記念物課長から植木町教育長あての「近代遺跡（軍事に関する遺跡）の詳細調査について」の依頼に基づく文化庁調査官の調査の実施、平成20年（2008）6月の文化庁調査官の現地視察等を経て、平成21年（2009）度から田原坂周辺の本格的な調査が実施された。

調査は主に発掘調査、金属探知機調査、文献調査、地元住民への聞き取り調査であり、それぞれの調査成果の概要は『熊本市の文化財第5集 田原坂』（熊本市教育委員会、2011年）、『熊本市の文化財第15集 田原坂Ⅱ』（熊本市教育委員会、2012年）にまとめ、平成25年（2013）12月に史跡指定へ向けて国への意見具申を行った。指定後も調査は継続し、その成果は『熊本市の文化財第30集 田原坂Ⅲ』（熊本市教育委員会、2013年）、『熊本市の文化財第39集 田原坂Ⅳ』（熊本市教育委員会、2014年）、『熊本市の文化財第48集 田原坂Ⅴ』（熊本市教育委員会、2015年）にまとめ、さらに総括報告書として『熊本市の文化財第127集 西南戦争遺跡―田原坂総括調査報告書』を令和6年（2024）度に刊行している。

第2節 調査研究の概要

（1）概要

西南戦争遺跡は周辺がミカン畑として造成されているものの、景観は当時と大きな変化がなく田原坂本道も一部拡幅や法面保護がなされているが、概ね「遺跡の保存状態が良好」である。しかし、「遺跡にかかわる建造物、遺構、敷地等が良好に保存されており、学術的価値が高いこと」という点では「田原坂の戦い」が従来伝聞や文字資料、地形や地勢のみに大きく頼っていて調査不足の部分があり、具体的かつ個別的な実態が不明で学術的価値付けに欠けるきらいがあった。そこで、まず周辺全域を踏査して遺構や遺物の分布状況を調査し、地域住民への聞き取りも実施して西南戦争遺跡詳細分布地図を作成した。その後、後世の開墾などの土地改変がない場所を選定して、金属探知機調査やトレンチ調査などを実施した。

遺構は主に西郷軍陣地の存在を示す塹壕跡や政府軍砲弾の着弾痕などであり、それらの位置を特定して規模や形態、構造、内容、対峙する方向、遺物の出土状況、小銃弾や砲弾がどの方向から撃ち込まれたものか等の情報を明らかにした。遺物は薬莢や雷管などその場所で銃を発砲したことが明確に推定できるもの、あるいは集中して出土した小銃弾などである。小銃弾や砲弾片は戦場であることを示す重要な遺物で、付近に陣地があることが想定できるが、それらのみでは直接陣地の位

置は示さないと考えられるため慎重に精査を行った。

（２）発掘調査歴

①第１次調査 平成 21 年（2009）度 調査主体：植木町教育委員会

田原坂を中心とする一帯の西南戦争遺跡の分布調査と聞き取り調査、および金属探知機調査と三ノ坂の発掘調査を実施した。結果、西南戦争遺跡の広がりや内容、小銃弾の集中箇所などが判明し、西郷軍陣地が推定できるようになった。本調査の成果は次年度に『熊本市の文化財第 5 集 田原坂』として刊行した。

②第２次調査 平成 22 年（2010）度 調査主体：熊本市教育委員会（以下同じ）

田原坂公園を中心として発掘調査、金属探知機調査と自然科学土壌分析を実施した。発掘調査では西郷軍の塹壕跡を確認し、遺物も小銃弾、薬莢のほか軍服金ボタンなどが多数出土した。田原坂の発掘調査によって塹壕が確認できたのは初例で、西郷軍が多種類の小銃を使用していたことが明らかになった。また、土壌分析では稲藁使用の痕跡が検出され、古写真に写る俵などを用いた胸牆構築の状況が推定できる結果が得られた。本調査の成果は『熊本市の文化財第 15 集 田原坂Ⅱ』として刊行した。

③第３次調査 平成 23 年（2011）度

前年度に引き続いて田原坂公園と田原坂本道二ノ坂付近の発掘調査、金属探知機調査と自然科学による土壌分析を実施した。田原坂公園の発掘調査ではトレンチから松根が出土し、当時の地面と植生が判明した。また、明治 13 年（1880）の崇烈碑建設に伴う土取り場遺構が確認され、壁面には工具痕が残り、石灰岩破片も出土した。二ノ坂付近の調査は金属探知機調査のみであったが、調査地全体から小銃弾と薬莢を主とした西南戦争関連遺物が非常に多く採取された。薬莢集中箇所から政府軍兵士による発砲地点が特定できる、当時の戦闘の様子を彷彿とさせる分布状況であり、後世にほとんど手が加えられていないと考えられる地形と相まって極めて良好に戦跡が残存していた。本調査の成果は『熊本市の文化財第 30 集 田原坂Ⅲ』として刊行した。

④第４次調査 平成 24 年（2012）度

前年度から引き続いて田原坂公園と田原坂本道三ノ坂付近の発掘調査、金属探知機調査を実施した。三ノ坂調査地では平成 21 年（2009）度調査トレンチを再調査し、下部から中世に遡るとみられる古道を確認した。本調査の成果は『熊本市の文化財第 39 集 田原坂Ⅳ』として刊行した。

第3節 指定の状況

(1) 史跡名・所在地等

史 跡 名	西南戦争遺跡
所 在 地	熊本県熊本市北区植木町豊岡字栗ノ木平 1585 地先外 35 筆等
指定年月日	平成 25 年 3 月 27 日
面 積	27,586.00 m ²
告 示 番 号	平成 25 年 3 月 27 日付け文部科学省告示第 39 号

(2) 指定理由文とその範囲

西南戦争遺跡は、明治十年（一八七七）、鹿児島土族層を中心とする土族が政府に反旗を翻し、九州中南部一帯を舞台に行われた国内最大・最後の内戦にかかわる遺跡である。明治六年の征韓論の政変以後、一部土族が佐賀・熊本・秋月・萩で反乱を起こしたが、これらの反乱の最後として、明治十年二月、私学校生徒等が西郷隆盛を首領として蜂起し、熊本等の土族や徴募兵も呼応した。西郷軍は、熊本城の政府軍との攻防戦、田原坂の激戦で敗北し、大分・宮崎・鹿児島を敗走、九月二十四日に西郷が城山で自刃して収束した。明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上、著名な戦争である。

このうち、豊前街道や三池往還・吉次往還が通る熊本県北部の熊本市植木・玉東町地域では、熊本城援軍のため南下する政府軍と、これを阻止しようとする西郷軍が、二月下旬から四月初めにかけて激突した。政府軍は木葉に本営を設置し、三月四日より、西郷軍が防塁等を築いて籠もる田原坂に進攻を開始した。政府軍は二度に及ぶ総攻撃をかけたが成果が上がらず、田原坂の西側の二俣台地に砲台を築き、側面から砲撃を加えて西郷軍に打撃を与え、三月二十日の総攻撃でようやく田原坂を陥落させた。この間、田原坂を見渡すことができ、二俣砲台等に近い横平山（標高一四四メートル）は、両軍による争奪の場となり、吉次往還では、三ノ岳と半高山に挟まれた吉次峠において両軍の激戦が行われた。田原坂陥落後も植木では市街戦が続いたが、ついに西郷軍は敗退、四月十四日には政府軍が熊本城に入城し、西郷軍は人吉に落ち延びた。戦時、政府軍は負傷者を収容し、治療する施設として正念寺等に大繙帯所を設置した。戦没した政府軍兵士等は周辺に仮埋葬され、その後高月や宇蘇浦等の官軍墓地に埋葬された。明治十三年には、陸軍省によって、現在の田原坂公園内に崇烈碑が建立された。

今回指定を行うのは、田原坂古戦場（熊本市域）、二俣砲台跡、横平山古戦場、半高山・吉次峠古戦場、正念寺、高月官軍墓地、宇蘇浦官軍墓地（以上、玉東町域）である。玉東町および植木町（現・熊本市）教育委員会では、平成二十一～二十四年度にかけて発掘調査、文献調査等を実施した。田原坂古戦場は、田原坂本道（延長約一一六〇メートル）を中心とする戦場跡である。田原坂入口の中谷川に架かる豊岡の眼鏡橋は、享和二年（一八〇二）築造の石製の単一アーチ橋である。坂は一ノ坂口で標高二五・九メートル、三ノ坂上で一〇六・九メートル、道幅四メートル程度であり、旧状をよく残し、道は幾度も屈曲し、昼なお暗く、両壁が高い凹道が続く場所である。三ノ坂上は戦争当時、西郷軍が布陣した場所である。現在、田原坂公園として整備されているが、地形の改変を受けていない部分も多く、当時の陣地構築状況等を知る上で重要である。また、崇烈碑は石灰岩製で、

台座を含めた総高は六メートルである。撰文・篆額は征討総督・有栖川宮熾仁親王で、碑文には戦争の経緯、田原坂激戦の様子が記されている。

二俣の瓜生田・古閑砲台跡は、田原坂と谷を挟んだ西側の台地上に所在する。金属探知機を用いた表面探査の結果、大砲を発射させる際に使用する摩擦管等が出土した。瓜生田砲台では、砲台跡の硬化面や大砲の轍と考えられる遺構、廃棄土坑等を検出した。横平山古戦場では、山の北側斜面一帯で銃弾や薬莢等が多数出土した。山頂の塹壕跡からは多数の薬莢が出土し、政府軍・西郷軍の戦闘の具体相が明らかとなった。半高山・吉次峠古戦場においても銃弾・薬莢・砲弾等の遺物を多数確認し、山頂部では戦闘に伴い築造された土抗状の掘り込み・盛土遺構を検出した。

正念寺は、承応三年（一六五四）創建とされる真宗寺院である。戦時、政府軍の大繻帯所として負傷者の治療が行われ、境内に戦死者の仮埋葬も行われた。本堂・庫裏等は建て替えられ旧状をとどめていないが、戦争当時の山門が三池往還に面して現存し、銃弾の痕跡も残る。戦争の傷跡をとどめる大繻帯所の遺構として貴重である。

高月官軍墓地は、正念寺の西側、三池往還沿いに立地し、九八〇柱を葬る墓地である。天草砂岩製の墓石に、植木・玉東町地域で戦死した兵士の階級、氏名、出身地、所属部隊、戦没地点を刻む。宇蘇浦官軍墓地は木葉山の中腹に位置し、三九九柱を葬る墓地である。基本的には高月墓地と同様であるが、安山岩製の墓石による警視局六四柱の戦死者も含む。

このように、西南戦争遺跡は、わが国最後の内乱として、明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上著名な戦争にかかわる遺跡である。発掘調査等によって、田原坂古戦場をはじめとする各遺構が良好に遺存することが確認された。近代の政治・軍事を知る上で重要である。よって、史跡に指定し保護を図ろうとするものである。

（『月刊文化財』平成25年2月号（593号）より抜粋）

（3）指定地の現状

指定地は現在すべて市有地であり、田原坂本道は市道、田原坂公園は都市公園、豊岡の眼鏡橋は橋梁として熊本市が管理し、市民の利用に供している。

田原坂本道周辺の地形は当時から大きな改変は受けておらず、旧状を比較的良好に残している。道路の全長は約1,160 m、道幅約4 m、標高は一ノ坂口25.9 m、三ノ坂上の崇烈碑付近106.9 mで比高差は81 mである。複数のカーブがあり、途中に両壁が高い凹道が続き昼間でも薄暗い場所がある。地理的環境によって歴史的環境が出現した特徴的な場所であり、地理と歴史が密接不可分の関係にあることを明確に示す場所である。

（4）計画対象範囲の現状（※追加指定検討範囲を含む）

本計画では西南戦争遺跡指定地とその関連地を対象とする。指定地の現状については前項で記述しているため、本項では指定地以外の各対象地の現状について以下に示す。

○田原坂および田原坂公園近隣地

指定地の近隣では過去に調査が実施され、西南戦争の遺構・遺物などが確認されている。具体的

な調査地は北平古道調査地、田原城・田原寺跡調査地、みかん小屋調査地、熊本市有地(北)および(南)調査地、田原熊野座神社調査地などである。これらの調査地では小銃弾や雷管などの戦時遺物や塹壕跡などの戦時遺構が良好に残り、西南戦争当時の様子を明確に把握することができる。田原熊野座神社調査地では境内樹木に金属反応がある立木(おそらく銃砲弾が刺さったまま内包されている)が複数存在し、石灯籠や本殿などにも西南戦争時の弾痕が残り当時の激戦の様子を伝えている。

○七本官軍墓地

七本官軍墓地は熊本市北区植木町轟字多尾 2105 に所在し、昭和 58 年(1983)1 月 18 日に熊本県の史跡に指定されている。敷地全体は国有地であり熊本市が無償貸し付けを受け都市公園として管理を行っている。明治 11 年(1878)8 月に建設されて以来、当時の姿をほぼ留めているが、砂岩製の墓石は全体的にひび割れや破損が目立ち、近年は平成 28 年熊本地震や悪質な倒壊行為によって大きな毀損を受けたものも多い。当該地には西南戦争で戦死した陸軍将兵 276 名、警視隊士 14 名、軍夫 10 名、計 300 名が埋葬されている。敷地面積は 1,383 m²で周囲を石積みで囲み、その上にさらに石柵がめぐらせてある。

川口武定著『従征日記 卷二』によれば「衆目ヲ愕シ、或ハ怯心ヲ生スルノ恐レ」から人目につきづらい場所に建設したと思われ、現在も七本官軍墓地の周辺は農地および竹林であり、主要道路からも離れている。

○明德官軍墓地

熊本市北区明德町 1277 番 4 に所在し、昭和 52 年(1977)10 月 11 日に熊本県の史跡に指定されている。七本官軍墓地と同様、敷地全体が国有地であり熊本市が無償貸し付けを受けて管理を行っている。明治 11 年(1878)に竣工したとされ、敷地は周囲の法面を含めて面積約 374 m²、周囲の民地・道路よりも約 1.0 ～ 1.4 m 高く、北辺を正面とする。墓石は尉官将校墓 2 基、下士官墓 17 基、兵卒墓 98 基、軍夫墓 5 基の合計 122 基が現存する。七本官軍墓地と同様、主要道路から離れたところに位置し、周辺は住宅地になっている。

○寄鶴官軍墓地

熊本市北区明德町 981 番に所在し、明德官軍墓地とともに昭和 52 年(1977)10 月 11 日に熊本県の史跡に指定されている。墓地は南面し、現状で標柱 1 基、墓石 1 基が敷地内に存在する。標柱は安山岩製、頭部角錐形の角柱で正面に「明治十年之役戦死者墳墓地」、背面に「明治廿三年三月建設 熊本縣」と刻されている。墓石も安山岩製で頭部角錐形の角柱、正面に「軍夫三十名之墓」、向かって右側面に「明治十年之役戦死」、向かって左側面に「大正十年再建 熊本縣」と刻されている。敷地全体は民有地であり、凝灰岩板石と安山岩縁石による敷石が施され、周囲はコンクリート柱 16 本とこれを繋ぐ鉄製鎖によって区画されている。七本官軍墓地、明德官軍墓地と同様に主要道路から離れたところに位置し、周辺は墓地および畑地になっている。

○田原熊野座神社

熊本市北区植木町豊岡 2177 番に所在する、未指定の関連地である。当該地は山鹿方面と熊本方面を結ぶ脇往還に面し、南に進めば田原坂本道と合流する。記録類によれば「田原坂北之手松山台場」あるいは「小松山台場」などと呼ばれていたとされる。付近一帯は田原坂の戦いのはじめごろから「宮山争奪戦」の舞台となった。境内から多くの遺物（小銃弾、薬莢など）が見つかっており、境内樹木には銃砲弾が刺さったまま内包され、石灯籠や本殿などにも西南戦争時の弾痕が残る。

○七本柿木台場薩軍墓地

熊本市北区植木町轟 2644 番に所在する、未指定の関連地である。戦後、周辺の側溝や畦畔に仮埋葬されていた 300 名以上の遺体を改めて西郷軍七本柿木台場跡にまとめて埋葬したものである。その後、明治 16 年（1883）に七回忌を期した鹿児島県有志による改葬事業により多くの遺骨は回収されたものとみられ、現在は都市公園として整備・利用されている。

第4節 指定後の調査成果

西南戦争遺跡は指定後も継続して調査を行っている。調査の対象は主に指定地に関連する周辺地および遺跡であり、西南戦争遺跡の広がりを調査するものである。各調査の詳細は『熊本市の文化財第 127 集 西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』に譲り、ここでは概要のみ記載する。

（1）発掘調査等

平成 25 年（2013）度には、西南戦争遺跡の田原坂本道一ノ坂の南西に存在する岡林遺跡で発掘調査を行った。調査では合計 29 本の試掘坑を設定したが遺構は確認されず、遺物も極めて少量であり、調査地全体がミカン畑造成により大きく削平、攪乱を受けている状況が確認された。未指定の関連地である熊野座神社では、敷地の境界確認を行い調査地の地形測量図を作製した。県指定史跡の七本官軍墓地では、地形測量図作製および詳細平面図の作製を行った。また、指定地内に所在する崇烈碑の実測図作製を行った。

平成 26 年（2014）度には、田原熊野座神社で金属探知機調査と遺物取り上げ、境内樹木の調査、再建社殿の弾痕調査を行った。田原坂本道三ノ坂に接続する北平古道の調査では、現況測量調査、金属探知機調査、トレンチ調査を実施した。調査の結果、遺物が多数出土し本調査地が西南戦争における重要な場所であったことが位置づけられた。七本官軍墓地では各墓石の計測と記銘調査を行った。

平成 27 年（2015）度には、みかん小屋周辺調査地において金属探知機調査と遺物取り上げを行った。田原熊野座神社では、境内樹木の調査を実施し樹木に突き刺さった銃砲弾の検出を行った。熊本市有地（北）および熊本市有地（南）の調査および田原城跡・田原寺跡調査では、金属探知機調査および遺物取り上げを行った。

平成 28 年（2016）度には、田原城跡・田原寺跡調査では金属探知機調査、遺物取り上げ、トレンチ調査、および周辺の墓石調査を行った。七本官軍墓地および明德官軍墓地では熊本地震の被害状況確認と応急復旧を行った。

平成29年(2017)度には、明德官軍墓地で墓石記銘調査を行った。北平古道調査で金属探査、遺物取り上げ、トレンチ調査を行った。

(2) 文献調査

平成21年(2009)度から継続して文献調査を実施している。「田原坂の戦い」の状況については様々な文献に記載があり、17日間にわたる激戦の様子が描かれている。ここでは文献より得た「田原坂の戦い」の概要と推定戦闘地及び調査地についての一覧を『熊本市の文化財第127集 西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』より転載する。

表8 田原坂の戦い状況一覧

3月4日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
豊岡村左側を進む 田原坂 坂左側から邊場山(平原山) ⁽¹⁾ 下を通して豊岡村へ向かう 田原坂本道 左方の山谷から進入 田原坂本道 左方に向かう 田原坂本道 豊岡村に向かい山上の薩塁に迫る	近歩1連1大1中左小隊 近歩1連1大3中 熊鎮14連2大2中左小隊 熊鎮14連2大4中 熊鎮14連2大4中左小隊	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社	薩4大7小 ⁽⁴⁾ 薩5大8小 ⁽⁵⁾ 薩6大1小 薩6大3小 薩6大4小	田原坂上の小学校後ろ松山 熊野座神社、宮山 豊岡本村背後の山中 豊岡本村背後の山中 豊岡本村背後の山中
田原坂 坂道を進む 二俣より田原坂へ偵察のち接戦 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 正面、坂上に迫る	近歩1連1大2中 熊鎮14連2大3中の一部 熊鎮14連3大3中 熊鎮14連3大4中 熊鎮14連3大4中左1半隊	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩4大7小 薩5大1小 薩5大5小	田原本陣右翼 田原本陣右翼 田原本陣右翼
田原坂 右側に迂回し豊岡村に至る 田原坂 坂傍から横撃、1塁を奪う	近歩1連1大4中 近歩1連1大4中右小隊	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯		
田原坂本道 坂下右方の薩塁を攻撃 田原坂本道 坂上右方高地より進入 二俣長窪間 谷を挟んで村端で対戦	熊鎮14連3大1中 熊鎮14連3大2中 近歩1連2大2中 ⁽²⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半分部 公園南半分部 資料館下 舟底遺跡	薩1大8小 薩4大7小 薩5大5小 薩5大8小 薩6大2小 薩6大4小 ⁽⁶⁾ 薩6大6小 ⁽⁶⁾ 薩6大7小 ⁽⁶⁾	田原
田原坂半腹 敵前250m 二俣村	東鎮豫砲1大右分隊 ⁽³⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯	薩砲兵1個半数 ⁽⁷⁾	田原坂守備

3月4日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
		豊岡台地南部一帯	薩 1 大 7 小 薩 2 大 9 小 薩 5 大 9 小 薩 6 大 5 小	田原坂左翼 (七本、轟方面)
			薩 1 大 6 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 熊本 3 小 ⁽⁸⁾ 熊本 7 小 ⁽⁸⁾ 熊本 9 小 ⁽⁸⁾	七本
			薩摩 4 大 6 小 ⁽⁹⁾	七本のち吉次 轟村

3月5日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
豊岡村 田原の左より進撃 豊岡村 進入 薩軍左翼の嶮より攻撃	熊鎮 14 連 2 大 4 中 近歩 1 連 1 大 1 中右半隊 ⁽¹⁰⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社	薩 5 大 8 小 ⁽¹²⁾ 薩 5 大 5 小	田原坂北之手松山台場 田原本道右翼
田原坂 田原坂	熊鎮 14 連 3 大 4 中 熊鎮 14 連 3 大 2 中右小隊	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地 (北) 市有地 (南)	薩 5 大 5 小左半隊 薩 5 大 8 小 ⁽¹²⁾	田原坂本道 田原坂本道
長窪山麓 長窪山 右方の一高阜	近歩 1 連 1 大 2 中 近歩 1 連 1 大 4 中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 1 大 8 小 薩 4 大 7 小 薩 6 大 4 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 1 大 6 小 ⁽¹³⁾ 薩 4 大 5 小	田原 長窪山麓、右方の一高阜 長窪山
二俣	中央分隊 (東豫砲 1 大) ⁽¹¹⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
		豊岡台地南部一帯	薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 薩 4 大 6 小	七本 轟村

3月6日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原口 坂左の谷より進軍、薩壘3ヶ所を抜き追撃、一の宮社に放火し進む	近歩1連1大1中 ⁽¹⁴⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社	薩5大8小 ⁽¹⁸⁾	田原坂北之手松山台場
田原坂左翼 田原坂左翼	大鎮9連2大3中 熊鎮14連3大1中1分隊			
田原口 坂右に出る 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂 田原坂 田原坂	近歩1連1大3中 大鎮9連1大1中 大鎮9連1大4中 大鎮9連2大1中 熊鎮14連2大2中左小隊 選抜銃卒(14連2大各中隊) 熊鎮14連3大各中隊	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
二俣口 長窪山薩壘に迫る (倉の台場・田原坂口横面)	近歩1連1大4中 ⁽¹⁵⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩1大8小 薩4大7小 薩5大5小 薩5大8小 薩6大4小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大11小 ⁽¹⁹⁾	田原
二俣口 舟底山 田原坂右翼 田原坂右翼 田原坂右翼	選抜隊 大鎮8連2大1中 大鎮8連2大4中 大鎮9連2大2中		薩1大7小 薩2大7小 薩2大9小 薩5大1小 薩6大5小	田原方面
七本村、轟村 田原坂本道に近づく	近歩2連1大1中 ⁽¹⁶⁾	豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣村	砲兵右分隊 (東鎮豫砲1大) ⁽¹⁷⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
		豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 薩4大6小	七本
				轟村

3月7日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 左側山上の薩塁に迫る 田原坂本道 鉢割坂及びその右に進む 田原坂本道 北山から豊岡村に深入 小畑村に向かう 小畑村に向かう 小畑村に向かう	大鎮9連2大1中 大鎮9連2大2中 大鎮9連2大3中 近歩1連1大3中 広鎮11連1大3中 広鎮11連1大4中	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社	薩5大8小 ⁽²³⁾	熊野座神社（宮山）、 小松山台場（北手松山 台場）
田原坂本道 田原坂本道 林叢間潜進、路左右に進む 田原坂 坂上激戦に応援 田原坂	近歩1連1大1中 別働狙撃2小、3小 熊鎮14連3大4中 熊鎮14連3大1中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）	薩2大7小 薩4大7小 薩5大8小 ⁽²³⁾ 薩7大11小	田原本道 田原本道 田原本道 田原本道
田原坂本道正面 薩の左側を横撃 田原坂本道正面 近歩2連1大1中の左翼 田原坂本道正面 薩の左側を横撃 田原坂本道正面 近歩2連1大1中の援兵 二俣口 中久保 二俣口 右は長窪山の薩軍 二俣口前面 右は長窪山の薩軍 二俣口前面 右は長窪山の薩軍	近歩2連1大1中 ⁽²⁰⁾ 近歩2連1大3中 ⁽²⁰⁾ 別働狙撃1小 近歩1連1大4中 近歩1連1大1中 ⁽²¹⁾ 近歩1連2大2中 大鎮9連1大3中 大鎮9連1大4中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩5大5小 薩6大4小 薩6大6小 薩6大7小	田原
田原口本道 二俣村	砲兵隊 （東鎮豫砲1大右、中央 分隊） ⁽²²⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵	近歩1連2大1中 近歩1連2大4中 東鎮1連2大1中 東鎮1連2大3中 東鎮3連2大2中 東鎮3連2大4中半隊	豊岡台地南部一帯	薩6大2小 薩7大3小 ⁽²⁴⁾ 薩7大10小 ⁽²⁴⁾ 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 熊本7小 熊本10小 薩1大6小 薩4大6小	七本 轟村

3月8日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂左側 二俣口より進撃、田原坂 横面（倉の台場）、中央 台場（倉の台場左翼）、 小松山（宮山）	近歩1連1大4中 ⁽²⁵⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一 帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）	薩5大8小 薩2大1小 ⁽²⁹⁾	小松山（北手松山台場） 北手松山台場
田原坂正面 田原坂正面 田原坂 田原坂全面 長窪山に向 かう	近歩1連2大4中 別働狙撃隊1、2、3小 熊鎮14連3大4中 ⁽²⁶⁾ 近歩1連2大2中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩1大6小 薩2大2小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大4小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小	田原
二俣	砲兵隊 （東鎮豫砲1大） ⁽²⁷⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
田原坂右翼 援隊 二俣より本道へ進む	大鎮8連2大3中	豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
田原坂正面 七本ノ原へ 進軍	近歩1連2大3中 ⁽²⁸⁾	豊岡台地南部一帯	薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小	七本
田原坂右翼 攻撃兵	近歩1連2大1中		薩4大6小	轟村
田原坂右翼 攻撃兵	近歩1連2大4中			
田原坂右翼 攻撃兵	近歩2連1大1中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮1連2大1中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮1連2大3中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮3連1大3中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮3連1大4中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮3連2大2中			
田原坂右翼 攻撃兵	東鎮3連2大4中半隊			
田原坂右翼 守線兵	近歩1連3大1中			
田原坂右翼 守線兵	近歩2連1大2中			
田原坂右翼 守線兵	東鎮3連2大3中			
田原坂右翼 守線兵	熊鎮14連2大4中			
田原坂右翼 守線兵	熊鎮14連3大4中1半隊			
田原坂右翼 応援兵	近歩1連1大1小			
田原坂右翼 応援兵	熊鎮14連2大2中			
田原坂右翼 応援兵	熊鎮14連2大4中1小			
田原坂右翼 応援兵	熊鎮14連3大2中			
田原坂右翼 応援兵	熊鎮14連3大4中1小			

3月9日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
		豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡	薩2大6小 薩6大4小 薩6大6小	豊岡村守備 豊岡村守備のち春日村 豊岡村守備のち春日村
田原口より田原坂進撃 田原口より田原坂進撃 二俣口より田原坂へ進む 二俣口より田原坂へ進む 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂 近衛の戦線に加わる 田原坂	近歩1連1大1中 ⁽³⁰⁾ 近歩1連1大3中 ⁽³⁰⁾ 近歩1連1大2中 ⁽³⁰⁾ 近歩1連1大4中 ⁽³⁰⁾ 東鎮1連2大1中 東鎮1連2大4中 東鎮3連1大2中 東鎮3連1大3中 近歩2連2大1中 近歩2連2大2中 近歩2連2大4中 東鎮1連1大の2個中隊 熊鎮14連2大3中 ⁽³¹⁾ (大鎮)工兵2大1分隊 ⁽³²⁾	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南） 豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小	田原
二俣	砲兵1分隊 (東鎮豫砲1大) ⁽³³⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口 二俣口 轟の薩軍を攻撃 轟の薩軍を攻撃 轟の薩軍を攻撃	東鎮1連2大3中 東鎮3連1大4中 近歩1連2大1中 ⁽³⁴⁾ 大鎮9連1大1中 ⁽³⁴⁾ 大鎮9連1大2中 ⁽³⁴⁾	豊岡台地南部一帯	薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 熊本7小 ⁽³⁵⁾	七本
			薩1大6小 薩2大1小半隊 薩2大2小半隊 薩4大6小	轟村

3月10日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 近歩1連1大3中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		

3月10日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
長窪村中央 長窪山 田原左側	近歩1連2大2中 ⁽³⁶⁾ 広鎮11連2大3中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小	田原
二俣	東鎮豫砲兵1大 (2小隊左分隊加わる) ⁽³⁷⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
立野山(立花木) 二俣口前面田原右側 田原右翼	近歩1連1大4中 近歩1連2大1中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 薩4大6小	七本 轟村

3月11日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 ⁽³⁸⁾ 近歩1連1大3中 ⁽³⁸⁾ 近歩2連1大の1個中隊 近歩2連の1個中隊 東鎮1連の2個中隊 広鎮11連3大4中 広鎮11連2大4中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
二俣口前面 田原中央口 二俣口前面 田原中央口 二俣口前面 田原中央口	近歩1連1大2中 近歩1連2大1中 大鎮9連1大2中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大10小	田原
長窪山	近歩1連2大2中			
田原坂 二俣 舟底村薩塁攻撃 二俣	(大鎮) 砲兵4大2小右 分隊1分隊 ⁽³⁹⁾ (大鎮) 砲兵4大2小 1分隊 ⁽³⁹⁾ 砲兵(東鎮豫砲1大) ⁽⁴⁰⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		

3月11日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
立野山（立花木）	近歩 1 連 1 大 4 中	豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小	七本
立野山（立花木）	選抜狙撃隊		薩 3 大 4 小	
立野山（立花木）	広鎮 11 連 2 大 3 中		薩 3 大 7 小分隊	
二俣口	東鎮 1 連 3 大 1 中		薩 5 大 3 小	
二俣口	東鎮 1 連 3 大 2 中		薩 5 大 3 小	
二俣口前面七本ノ原台場	近歩 1 連 2 大 3 中 ⁽⁴¹⁾		薩 5 大 4 小	
二俣口前面 右翼中央	広鎮 11 連 3 大 3 中		薩 6 大 2 小	
二俣口 田原坂進撃	熊鎮 14 連 2 大 2 中 ⁽⁴²⁾		薩 7 大 3 小	
二俣右側横平山守線を出、前面薩壘攻撃	近歩 1 連 2 大 4 中		薩 7 大 9 小	
			薩 7 大 11 小	
		佐土原 1 小		
		佐土原 2 小		
		熊本 3 小		
		熊本 7 小		
		薩 4 大 6 小	轟村から七本応援	

3月12日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽⁴³⁾ 近歩 1 連 1 大 3 中 ⁽⁴³⁾	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		
二俣の前面左翼 二俣の前面左翼	広鎮 11 連 2 大 3 中 東鎮 1 連 1 大 1 中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 2 大 1 小 薩 2 大 2 小 薩 2 大 6 小 薩 4 大 7 小 薩 5 大 4 小 薩 5 大 5 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 7 大 3 小 薩 7 大 10 小	田原
田原坂本道 二俣 二俣	砲兵 4 大 2 小の半分 砲兵 4 大 2 小の半分 東鎮予砲兵 1 大	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
立野山（立花木） 立野山（立花木） 橘木（立花木） 七本ノ原台場 二俣口前面 二俣口右翼	近歩 1 連 1 大 4 中 近歩 1 連 2 大 3 中 2 分隊 熊鎮 14 連 3 大 3 中 ⁽⁴⁴⁾ 近歩 1 連 2 大 3 中半隊 ⁽⁴⁵⁾ 近歩 1 連 1 大 2 中 工兵全隊	豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 熊本 3 小 熊本 7 小 ⁽⁴⁶⁾ 熊本 4 大 6 小 ⁽⁴⁷⁾	七本 轟村

3月13日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂口	近歩1連1大1中 近歩1連1大3中 (大鎮) 工兵2大1小 4分隊 ⁽⁴⁸⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	熊5大5小 薩2大2左小半隊 ⁽⁵²⁾	田原本道右翼 田原坂本道
橘木より田原坂に進む	熊鎮14連3大3中 ⁽⁴⁹⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小 貴島2小 熊本1小	田原
田原坂本道 二俣村前面 二俣	砲兵4大2小の1分隊 砲兵4大2小の1分隊 東鎮豫砲兵1大 ⁽⁵⁰⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口前面 二俣口前面 七本ノ原台場	近歩1連1大2中 広鎮11連2大3中 近歩1連2大3中 ⁽⁵¹⁾	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩2大2小半隊 薩6大2小 薩5大4小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 貴島1小 高鍋1小 高鍋2小 熊本3小 薩摩3大4小	七本 轟村

3月14日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂台場	近歩1連1大1中 ⁽⁵³⁾ 近歩1連1大4中 ⁽⁵⁴⁾	田原坂本道北側一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩5大5小左半隊	田原坂本道応援から、田原坂上へ進む

3月14日

[illegible]

3月15日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
内北川より進み、宮ノ前で激戦 ⁽⁶¹⁾		豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 能野座神社		抜刀にて宮ノ原より押寄せ戦闘 ⁽⁶¹⁾

3月15日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 ⁽⁶²⁾ 近歩1連1大4中 ⁽⁶³⁾	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		
二俣前面 長窪村中央 長窪村前面 田原阜	近歩1連2大2中 ⁽⁶⁴⁾ 近歩1連2大3中 ⁽⁶⁵⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大6小 ⁽⁶⁸⁾ 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 貴島2小	田原
田原坂本道 二俣村 二俣村	砲4大2小隊の1分隊 砲4大2小 東鎮予砲1大 ⁽⁶⁶⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口 二俣 七本口	近歩1連2大2中 ⁽⁶⁷⁾ 熊鎮14連2大4中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩2大2小 ⁽⁶⁸⁾ 薩5大4小 薩6大2小 ⁽⁶⁸⁾ 薩7大3小 薩7大4小 薩7大9小 薩7大10小 薩7大11小 貴島1小 貴島2小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島3小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島4小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島5小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島付属砲隊 ⁽⁶⁸⁾ 佐土原1小 佐土原2小 高鍋1小 高鍋2小 熊本1小半隊 ⁽⁶⁸⁾ 熊本3小 熊本9小半隊 ⁽⁶⁸⁾ 熊本10小 ⁽⁶⁸⁾ 熊本11小 ⁽⁶⁸⁾ 薩3大4小	七本 七本柿木台場 轟村

3月16日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
谷より進み、栗ノ木平に 進撃 ⁽⁶⁹⁾		豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社		宮ノ原より押下し下射 ⁽⁶⁹⁾
田原坂本道第一線 田原坂本道第一線 田原坂本道第一線	近歩1連1大1中 近歩1連1大3中 近歩1連1大4中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		
舟底村山腹 田原	大鎮8連3大1中 熊鎮14連3大3中 ⁽⁷⁰⁾	豊岡台地中央部 一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 貴島2小	田原
田原口 二俣口	第1、2旅団砲隊 (東豫砲1大、砲兵4大 2小)	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口前面左側第一線 二俣口前面中央の第一線 二俣口前面中央の第一線 二俣口前面長窪村中間 第一線 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 二俣口前面右翼 七本口	大鎮10連2大1中 近歩1連1大2中 近歩1連2大1中 近歩1連2大3中 大鎮8連3大2中 大鎮8連3大4中 広鎮11連2大2中 広鎮11連2大3中 大鎮8連3大3中 熊鎮14連2大4中	豊岡中央部一帯 豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩1大8小右半隊 薩5大4小 薩6大2小 薩7大3小 ⁽⁷¹⁾ 薩7大10小 ⁽⁷¹⁾ 薩7大11小 貴島1小 佐土原1小 佐土原2小 高鍋1小 高鍋2小 熊本1小右半隊 ⁽⁷²⁾ 熊本3小 熊本7小 薩3大4小	七本 轟村

3月17日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 内2個中隊を前面に増加 し、左に方向を転じ田原 坂の背面を襲う	近歩1連2大4中 近歩1連1大3中(援隊) 大鎮8連3大3中	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
田原坂本道正面 山上に達し、塁で防戦 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 ⁽⁷³⁾ 近歩1連1大3中 警視抜刀隊(川畑隊) 東鎮3連3大1中 熊鎮14連3大1中 熊鎮14連3大4中 近歩1連1大4中 ⁽⁷⁴⁾	田原坂本道北側一帯	薩2大1小 ⁽⁷⁶⁾ 薩4大7小 ⁽⁷⁶⁾	田原坂北手ノ松山 田原坂北手ノ松山
田原坂左翼 田原坂左翼 田原坂 攻撃 田原坂 守兵 田原坂 守兵 田原坂 守兵 田原坂 守兵 田原坂 守兵	広鎮11連3大1中左小隊 広鎮11連3大4中左小隊 広鎮11連2大3中 熊鎮14連2大2中 広鎮11連2大4中 広鎮11連3大1中 広鎮11連3大4中 近歩1連1大3中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大2小 薩2大6小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大6小 貴島2小	田原 (田原坂本道守備) 田原 田原 田原 (田原口) 田原
田原口 二俣口	第1旅団(東豫砲1大)	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
田原阜 守保 田原坂右翼 田原坂右側 田原坂右側 左翼を迂回 田原右側 二俣口前面第一線 二俣口前面第一線 二俣口前面第一線 二俣口前面第一線 二俣口 攻撃 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵	近歩1連2大3中 ⁽⁷⁵⁾ 大鎮8連3大1中 熊鎮14連3大4中 熊鎮14連3大4中の半隊 熊鎮14連2大2中 大鎮8連3大3中 大鎮8連3大4中 広鎮11連□大3中 警視隊 熊鎮14連3大3中の1半隊 近歩1連2大1中 近歩1連2大2中 東鎮1連2大1中 東鎮1連□大1中 東鎮1連□大2中 大鎮8連2大3中 大鎮8連3大3中 大鎮8連3大4中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩5大4小 薩6大2小 薩7大3小 ⁽⁷⁷⁾ 薩7大10小 ⁽⁷⁷⁾ 薩7大11小 貴島1小 佐土原1小 佐土原2小 高鍋1小 高鍋2小 熊本3小 熊本10小 ⁽⁷⁸⁾ 熊本12小 ⁽⁷⁸⁾	七本

3月17日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵 二俣口 守兵	大鎮9連2大2中 広鎮11連2大3中 広鎮11連3大3中 熊鎮14連3大3中 警視抜刀隊（上田隊） 大鎮9連、10連の分隊	豊岡台地南部一帯	薩3大4小	轟村

3月18日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
水本、谷、岡林、北平等 にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾		豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社		水本、谷、岡林、北平等 にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾
田原口から二俣援兵、の ち田原坂本道 田原坂口 守兵	近歩1連1大3中 ⁽⁸⁰⁾ 近歩1連1大4中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		
舟底村山上で防戦 二俣口左翼 守線 二俣口左翼 守線 二俣口左翼 守線 二俣口左翼守線 前備 二俣口左翼守線 前備 二俣口左翼守線 前備 二俣口左翼守線 予備 二俣口左翼守線 予備 二俣口左翼守線 予備 二俣口左翼守線 付属	近歩1連1大1中 ⁽⁸¹⁾ 東鎮1連1大1中 大鎮8連3大4中 広鎮11連3大3中 近歩2連1大1中 東鎮1連2大1中 東鎮3連1大4中 近歩1連2大2中 東鎮1連2大3中 東鎮1連2大4中 工兵2大 ⁽⁸²⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 貴島2小	田原
田原坂本道 二俣村 二俣村	砲4大2小の1分隊 砲4大2小の3分隊 東豫砲1大	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口前面攻撃兵 二俣口前面攻撃兵 二俣口前面攻撃兵 二俣口前面攻撃兵 左転 左翼 田原坂正面より轟村へ 右翼 田原坂正面より轟村へ 二俣口前面中央の薩塁攻撃 二俣口前面 左側 二俣口前面 中央 二俣口前面 中央 二俣口前面 中央 二俣口前面 右側	近歩1連1大4中 近歩1連2大3中 大鎮8連3大2中 大鎮8連3大3中 警視隊2分の1（川畑） ⁽⁸³⁾ 警視隊2分の2（上田） ⁽⁸³⁾ 近歩1連2大1中 近歩1連2大 大鎮8連3大3中 大鎮8連3大4中 大鎮10連2大1中 大鎮8連3大2中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩2大6小 薩3大3小 薩5大4小 薩6大2小 薩7大3小 薩7大4小 薩7大10小 ⁽⁸⁵⁾ 薩7大11小 貴島1小 佐土原1小 佐土原2小	（柿木台場） 七本

3月18日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
二俣口薩塁攻撃	東鎮1連3大1中	豊岡台地南部一帯	高鍋1小	
二俣口薩塁攻撃	東鎮1連3大2中		高鍋2小	
杉樹台場（正面の一塁）	東鎮1連の兵		熊本10小 ⁽⁸⁶⁾	
二俣口 左右翼	大鎮9連2大2中		熊本11小 ⁽⁸⁶⁾	
二俣口 左右翼	大鎮8連2大3中			
田原坂右側の山下 応援兵	熊鎮14連3大1中			轟村
二俣口前面遊軍	東鎮3連3大1中		薩2大2小	
立野山（立花木）二俣口 右側	広鎮11連2大3中		薩3大4小	
七本口	熊鎮14連2大4中		薩4大10小	二俣口
二俣口前面中央 守兵	近歩1連2大3中 ⁽⁸⁴⁾			
二俣口前面中央 守兵	大鎮8連3大2中			
二俣口前面中央 守兵	大鎮9連1大1中			
二俣口前面中央 守兵	大鎮9連3大2中			
二俣口前面 守兵	近歩1連1大2中			
二俣口前面 守兵	近歩1連2大1中			
二俣口前面 守兵	近歩1連2大4中			
二俣口前面 守兵	東鎮1連1大1中			
二俣口前面 守兵	東鎮1連1大2中			
二俣口前面 守兵	大鎮8連3大4中			
二俣口前面 守兵	大鎮9連2大2中			
二俣口前面 守兵	大鎮10連2大1中			
二俣口前面 守兵	広鎮11連2大3中			
二俣口前面 守兵	広鎮11連3大3中			

3月19日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
水本、谷、岡林、北平等 にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾		豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社		水本、谷、岡林、北平 等にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾
田原坂本道	近歩1連1大4中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）		
舟底村	近歩1連1大1中	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小 貴島2小	田原

3月19日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
		豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩5大4小 薩6大2小 薩7大11小 貴島1小 佐土原1小 佐土原2小 高鍋1小 高鍋2小	七本
			薩3大4小	轟村

3月20日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂口 田原坂口 田原坂口 田原坂口	近歩1連1大3中 広鎮11連2大4中 広鎮11連3大1中 広鎮11連3大4中	田原坂本道北側一帯 【調査地】 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地（北） 市有地（南）	薩1大8小右半隊 薩2大1小 薩4大7小 薩5大1小 薩5大5小 薩6大2小 薩7大6小	田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道
舟底村から植木街道（本道）、のち豊岡村駐屯	近歩1連1大1中 ⁽⁸⁷⁾	豊岡台地中央部一帯 【調査地】 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大2小 薩2大6小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小 貴島2小	田原
二俣 二俣、田原坂	東鎮豫砲1大 ⁽⁸⁸⁾ 砲兵4大2小 ⁽⁸⁹⁾	豊岡台地北部一帯 【調査地】 北平古道 田原坂城跡・寺跡 熊野座神社 豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		

3月20日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
前軍 先鋒	近歩1連2大3中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小	七本
前軍 先鋒	近歩2連2大2中		薩5大4小	
前軍 先鋒	近歩2連2大4中		薩7大11小	
前軍 先鋒	東鎮3連3大2中		貴島1小	
前軍 先鋒	大鎮9連2大4中		佐土原1小	
前軍 先鋒	熊鎮14連3大1中		佐土原2小	
前軍 先鋒	警視抜刀隊1小隊(川畑)		高鍋1小	
田原中央 援隊	熊鎮14連2大4中		高鍋2小	
左翼	熊鎮14連の1個中隊		薩3大4小	轟村
左翼に付属	大鎮工兵2大 ⁽⁹⁰⁾			
前軍 右翼 植木、向坂へ	近歩1連1大2中 ⁽⁹¹⁾			
七本ノ原台場、のち向坂へ	近歩1連2大3中 ⁽⁹²⁾			
中軍 援隊	東鎮1連1大3中			
中軍 援隊	東鎮1連1大4中			
中軍 援隊	東鎮1連3大2中			
中軍 援隊	大鎮8連3大1中			
中軍 援隊	大鎮8連3大3中			
中軍 援隊	大鎮10連2大4中			
中軍 援隊	警視抜刀隊1小隊(上田)			
中軍、のちに植木へ	近歩1連1大4中 ⁽⁹³⁾			
後軍 予備	近歩1連1大4中			
後軍 予備	近歩1連2大1中			
後軍 予備	近歩1連2大2中			
後軍 予備	近歩1連2大4中			
後軍 予備	大鎮8連2大3中			
後軍 予備	大鎮9連1大2中			
後軍 予備	大鎮10連2大1中			
後軍 予備	熊鎮14連3大3中			
第3旅団の援軍	熊鎮14連1大の右半大隊			

註

- (1) 陸上自衛隊北熊本修親会『新編西南戦史』1979年、220頁
- (2) アジア歴史資料センター、Ref.C09083506100「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第貳大隊第貳中隊」
- (3) アジア歴史資料センター、Ref.C09083513300「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (4)、(5)、(6)、(7)、(9)、(12)、(18)、(19)、(23)、(24)、(29)、(47)、(59)、(68)、(71)、(76)、(77)、(85) 鈴木徳臣「田原坂三ノ坂における薩軍の配備状況」『熊本市の文化財第30集 田原坂Ⅲ』熊本市教育委員会2013年、21～24頁、27頁
- (8)、(35)、(46)、(60)、(72)、(78)、(86) 宇野東風『硝煙弾雨 丁丑感舊録』丁丑感舊會、1928年、42～45頁、49～50頁、53頁
- (10)、(20)、(53)、(62)、(73)、(81)、(87) アジア歴史資料センター、Ref.C09083957400「近衛歩兵第一聯隊第一大隊第一中隊戦闘日記」
- (11) アジア歴史資料センター、Ref.C09083513400、C09083513500「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (13)、(52)、(57) 黒龍会本部『西南記傳 中巻一』黒龍会本部、1909年、573頁、588頁、591頁
- (14) アジア歴史資料センター、Ref.C09083957400「近衛歩兵第一聯隊第一大隊第一中隊戦闘日記」。但し、『薩南血涙史』198頁では、「3月7日に田原八幡神社に火を放つ」となっている。

- (15)、(25)、(54)、(63)、(74)、(93) アジア歴史資料センター、Ref.C09083957600「戦闘景況 出征第二旅團近衛歩兵第一聯隊第一大隊第四中隊」
- (16) アジア歴史資料センター、Ref.C09083506300「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第貳大隊第貳中隊」
- (17) アジア歴史資料センター、Ref. C09083513500「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (21) 加治木常樹『薩南血涙史』青潮社、1998 年、「第八節二俣の戦」「第四編第一章木留方面」203 頁
- (22)、(27) アジア歴史資料センター、Ref.C09083513600「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (26)、(31)、(42)、(44)、(49)、(58)、(70) 日本史籍協會『熊本鎮臺戦闘日記二』財団法人東京大學出版會、1977 年覆刻、77～79 頁、83～85 頁、91 頁
- (28)、(41)、(45)、(51)、(65)、(75)、(84)、(92) アジア歴史資料センター、Ref. C09083963300「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第二大隊第三中隊」
- (30)、(38)、(43)、(80) 全国近歩一会『明治十年西南ノ役 近衛歩兵第一聯隊第一大隊戦闘日誌』1933 年複写、1997 年復刻、7～8 頁、10 頁